

---

# むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみた

ナナツボシ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみた

### 【Nコード】

N8825Y

### 【作者名】

ナナツボシ

### 【あらすじ】

テンプレらしきシチュエーションで死に、目を覚ませばそこは森の中。いわゆる異世界迷い込みらしいが、元来フリーダムな性格な主人公は明るくポジティブに異世界を生きるッ！

これは前に書いてた「森の中」の改訂版だよ。

（ ） > < < 最強、ハーレム、ご都合主義が

含まれるよ。

（ ） >

< <地雷が嫌ならお帰りなさいな。

死ぬからのゝ生きるッッ！（前書き）

取り敢えず全力でテンプレな導入

## 死ぬからのゝ生きるッツ！

とりあえず自己紹介をしましょうか。まず名前は山崎と言います。下の名前は半太<sup>ハンタ</sup>と言いますが、小さい頃から「ヤマザキパン」と言われ続けたのが嫌ですから、山崎と覚えて欲しいです。そもそも半太と山崎でしたら、山崎の方が格好良いかなと。なんとなくそう思っています。

年は三十路も半ばなので、興味ないでしょうか？だから言いません。体型は身長が高いですが、痩せ形ですのでなんかマツチ棒みたいで好きじゃありません。

恋人は適当にいましたが、セックスの楽しいうちはいいののですが、将来だ結婚だと重たい話になると面倒になりました、30歳を機に恋人はもたず、風俗を極める事に心血を注ぎました。あはは。

池袋のヘルス「ヌクドナルド」のまどか嬢は、一年通った記念にまさかの本番をプレゼントしてくれたのが、ささやかであるが私の自慢であるでしょう。

今では店構えを見ただけで、その店が当りかハズレかは判るほど風俗の達人となれました。自慢にならないと思いますが、まあ、いいじゃありませんか。道を極める事は無駄になりませんよ。たとえ閨でしか発揮出来ないとしても。

仕事は中堅ゼネコンにいました。一応、一級建築士を持っていますが、独立出来るほど甘くはありません。ほら、世の中不況不況と騒がしいでしょう？独立したってたかが知れているんですよ。

だから適度に刺激的で、それでいて起伏の無い平凡な生活つても  
のを私は求めているのですよ、私は。

うん、違いますね……

やつでした……と訂正します。

何故かと言いますと、私は死んでしまったのです。それはもうア  
ッサリとゴリンジューって訳です。

まあ説明しましょうか。ってロボットアニメみたいですが、言わ  
なきゃ始まりませんから、お怒りは勘弁して欲しいですね。

そう、私はいつものように目を覚まし、身仕度を経て担当現場で  
あるある官公庁の新庁舎に向いました。うん、よく晴れた爽やかな  
朝でしたね。

早朝だから渋滞は皆無です。快適な国道を赤茶けた電波塔を背に  
現場に向かいました。このトウキョーのランドマークは無言でそび  
え立っています。何となく敬礼したくなりませんか？

やがて現場につき、朝の申し送りをします。最早ルーティン化し  
た儀式ですけどね。そうして内装を頼んでいた業者の担当者に会い  
に3階を目指し、私は足場を昇りました。パイプで組まれた櫓みた  
いな物ですね。

「山崎さん！危ない！」

と、いう叫び声を聞き、思わず上を見上げましたら、ハンマーが私を目がけ落ちてきました……そして暗転。痛いとか一切なしですよ？

どこかで「ごめんなさい、間違えて殺しました。お詫びに別世界で新しい命を手配します。あ、多少身体能力や判断力は上乘せします。では、頑張ってください。サヨウナラ」という女性の声が聞こえましたが、そのまま意識が飛びました。そもそも何がごめんなさいで、何が頑張ってるのですか？と問い詰めたいですね。あまりに不躰過ぎます。

で、気が付いたら森のなかと言う。

全裸で。

お母さん、寒いです。

いや、お母さんいませんが……。

なるほどなるほど、頑張る以前に説明が欲しい私でした。フリー  
ダムにさらされた私のお稲荷さんが虚しかったですね。



錯乱からのゝ人外ッ (前書き)

短くてごめんなさい。

## 錯乱からのく人外ツ

ほんとにほんとにほんとにライ ンだあ

近過ぎちゃってどうしよう!?

可愛くってどうしよう!??

異世界サファリパくくクッ!

はあ……私、ただいま絶賛現実逃避中です。

いやね?とりあえず裸ですし、人もいません。

鳥やなにかの獣の鳴き声はしますが……普通はパニックを起こしませんか?

はい、かくいう私も恥ずかしながら、発狂寸前……いや、発狂しましたよ。

そうですね?三時間は叫んだあたりですか?だんだん私は頭にきましたよ。

だから、そこらの大木に頭を打ち付けたわけです。

それはもう、どこかの汎用人型決戦兵器が暴走したかのようにガンガンと。当たり前かと思いませんか？

チンチン丸出しで何やってるんでしょうね。

ガンガン……はぁ……

あのですね……向こう側に頭が突き抜けましたよ。わかります？私の頭のカタチの穴が開いたのです。ぶつとい大木にデスヨ。

ポカーンですよ。

んなわけないと、今度は別の大木にアックスボンバーをかましたわけです。アックスボンバー、つまりホーガンが猪木を失神させたアレです。知りませんか？そんなお子様はお父さんに聞いて下さい。

そしたらバキィィ！！って。あ、グラップラーな最強息子じゃないですよ？

まあ私の戯れに放ったアックスボンバーで、一抱えで足りない位の大木が倒れました。いや、木っ端微塵です。

はぁ……理解しました。

死に際に聞いた変な女らしき声があった”身体能力や判断力”

ってこれですね。しかしちょっと所のレベルじゃないですって……  
判断力はよくわかりませんが、取り敢えず私はピクルやオーガミた  
いな人外らしいです。

まあ、冷静に考えたらここは気温は温暖ですし、身体能力は人外  
です。狩りでもしたら生きては行けそうですね。とりあえず、色々  
考えてみますか……

多分この体は滅多な事じゃ死ななそうですね。マラリアとか病気  
は分からないですが、多分大丈夫じゃないですかねえ……。

目標はとりあえず人外パワーで木を斬り倒し、建築士の知識で家  
を建てます。だって裸ですし…寝床はいるでしょう。

後は水場の確保と、食料の確保は欠かせません。

いやあ、私の超ポジティブな性格はサバイバル向きですね。

そこは親に感謝です。ありがとうございます、父さん母さん！！はっはっは  
……いや、いませんけどね両親。え？知りませんよ？孤児院育ちで  
すから。だから図太いんです。だって、遠慮してたらオカズ無くな  
りますし、学校いけば貧乏貧乏言われてハブにされますしね？図太  
くなきゃ生きてはいけませんね。まあいいでしょう、これは。

さあ、動きますか……

時は金なりと言いますからね。

## 挑戦からのバトルツ

取り敢えず水場から確保しますか。人間生きてくには、必ず水は必要ですからね？食物より先に水は必須ですよ？と、今は鬱蒼とした森な訳ですが、取り敢えず麓（と、思われる）方向を目指して出発です！全裸で！川探すのです！

ぶらーん ぺち

ぶらーん ぺち

こちらに来て、若干サイズアップした気がする我が愚息ですが、歩きたびに内股を叩くんです。うふん。この解放感 カ・イ・カ・ンです

多分、しばらく本来の目的である交尾には使えない、完全なる小便専用管と化してますね、我が愚息は。

だが、やはり大事にしてやりたいですよ。いつ何時、誰の快樂の泉にフェードインするかわかりませんか？と言つか我が亀仙人のツルツル頭が、さっきから若干痛いんです。

とはいえ、これといって策も無いです。なので、取り敢えずその辺の植物のつるを腰ヒモとし、柔らかな葉っぱを適度に垂らし、原始的なパンツを作成。はじめ人間ギヤー……ま、いいです。とにかく

く亀仙人は守られたのですから。

亀仙人も嬉しそうですよ。

とか言っていましたら、日もてっぺん辺りから傾いて来たので、水場探しに戻ります。と言うか喉がカラカラなんですよう。腹も減りましたしね。

だいたいですよ？夜になったらどんなヤバイ獣がでるか分からないですもん。あ、これフラグですか？うるさいです。

しかしツイてますね。時折見かける桃のような（色は黄色）果物を見かけ食べました。毒とか怖くないのか？いえ、気が付いたら食っていました。食べた後にあっ毒！？と思いましたけど遅いですよ。まあ結果オーライですか？私は渴いた喉を潤しながら、とにかく歩く、歩く。

そんなこんなで2時間も歩いたでしょうか？木がまばらになり、林くらの間隔になってきた辺りで、水が流れるような音がツツ！……！！

やりました！男、山崎！とうとう川を発見しま………おおっ！？私の人外アンテナが反応しましたよ旦那！

川のほとりには、水を飲む鹿のような動物がいました。

キタキタキタキタあ！

ワシ、あいつの命と<sup>タマ</sup>つちやる！！失礼、取り乱しました。

だって肉は食料になるだろうし、皮は服に出来ます。衣食住の衣・食を一気にゲットできますよ？ふっふっふ……

ただ、問題がひとつ。

ぬるい現代日本人である私は、生き物を殺す勇気が正直無いです。

多分、やっつけたら血がドバドバ出たり、変な液体飛び出し首が有り得ない方向に曲がったりするでしょう？

オエッ……想像しただけで、かなりグロいんですけど……

しかもアイツ、体高3メートルくらいありますし、ものっそい角あります。

刺されたら痛そう、ってか死ぬるでしょう？いくら身体能力チートだとはいえ、刺されたらヤバイに決まっています……

ん？ こっち見て……ますか？

鹿っぽいのが、首だけこっちむけて、「ん？」みたいに見えますね……あらやだ、超可愛いんですが。

ですが次の瞬間、彼の目が真っ赤になり、突進してきやがりました！！

ヤバイヤバイヤバイ！あれ、なんだ！？いや、そうです。話せばわかりますよ！落ち着け鹿！さぞかし名のある鹿とお見受けしたのが、なぜそう荒ぶるのか！違！う！あれ？私は結構余裕ある？いいから  
D A M A R E私の頭。

鹿タンと私の距離は約10メートル

うわあああああ！！

心臓が握り潰されるような恐怖のなか、私は手当たり次第その辺の石を投げつけます。目をつぶり、無我夢中で。まるで駄々っ子の攻撃ですね？「うわーん、こっちくるなー」的な？

七つ目くらい投げた辺りで、「ボグウー！！」と激しい音がして、静かになりました……。

おそろおそろ目をあけたら、鹿っぽいのが倒れてました！

近寄ってみるとピクピクと痙攣して、舌がびろーんと出ていて、頭がパーン！ってなっていました……。

うわあ…小石が弾丸並みの威力って……正直ヒキませんか？

ま、取り敢えず……



シカとっただとおお!!!

故郷の父さん母さん

貴方の息子は立派に童貞（殺しの）捨てましたよ！だから親いな  
いけど（しつこい）

はぁ……だがまたも問題発生です……解体作業のがグロいのでは  
無いでしょうか？

そして私は途方にくれた。

数分ほどですけどね！

罪悪感感しても腹膨れないですもん！

と、ポジティブ全開して、解体作業はじめましょうか。

私は刃物が無いので、河原のデカイ石にさらにデカイ石をぶつけ  
て叩き割り、刃物っぽいのをいくつか拾い、鹿のそばへ。

ぶつとと深呼吸

ズビユ　ヌチユ　ズビビビ……

（自主規制中）

はぁ、返り血で身体中が真っ赤です……

おかげさまで、大量のシカ生肉と、布団一枚くらいの大きさの皮をゲットしました！！

さっきの石でなめして、川で洗って乾かす。ウホツいい革です！

私の中に充実感が溢れ、取り敢えず人外ライフの入り口には立たかな？そう感じた昼下りでした。

## 充実からの労働ッ

やあ、山崎です。シカを仕留め有頂天です。取り敢えず食事を確保し、調理の為に乾いた枝を沢山集めました。

それらを組み上げ、焚き火の準備をし、チート身体能力を発揮させ火をつけました。板に枝で摩擦をぐるぐるってね？ああ、数秒とか笑えませんか？むしろ加減間違うと穴が開くんですよ。これだから人外は……と言う自虐ギャグをかましてみても虚しい。

火がおきた所で木を裂いて作った串に肉をさして焼くわけですが、お腹が空きすぎて生で行きたい衝動に！それやったら私の人間と言っ卒が完全に壊れそうなので我慢しました。

あ、肉は焚き火がオキ火になってから焼きました。流石に焦げたら美味しくないですから。

お腹一杯になり、川の水をガブガブ飲みましたら、ようやく心地がつかまりました。

柔らかい土のうえに寝転び、少し昼寝。緩やかな風がとても気持ちがいいです。

日本じゃなかなかこんな時間は取れませんから、なんか満たされた気持ちになりますね。大自然サイコー！鳥の声が今は心地がいいです。

お腹一杯になりましたら突如ムラムラしてきたので、新宿は歌舞伎町のピンサロ、「花マン開」のみゆきちゃんの、毛の無い綺麗な桜貝を思い出しながらの手淫を一つ……。

なんか、解放感がタマラナイです！。多分この快感は初めてかもしれない。よく裸のオツキアイだけのお姉さんと、野外で盛った事はあります。と言うか所謂アオカンなんて、そんな珍しくないじゃないですか。

だがしかし、こんな大自然で発電する紳士は中々いないでしょう？ヤバいです。癖になります。

……………ふう。

やあ、失礼失礼。つい賢者になってしまいました。メンゴメンゴ。

気を取り直し、今度は住居に取り掛かりましょうか。どうも見たところ近隣に集落らしき物はなさそうですし、彷徨っても深みにハマるでしょうか？常識的に考えて。だから取り敢えずは拠点って事です。

取り敢えず、川から50メートルくらいの場所の川から少し高い場所に、半径25メートル位の広場を作ります。流石に見通し悪い

と怖いですから。

中心には、樹齢5000年は下らないような、大木と言うには憚れる超巨大なブナの木があります。と言うかこの木は切ったりしたら何か祟りでもありそうな、そんな雰囲気がありますね。

だからその周りの木を次々と切り株ごと引っ込抜き、広場を作ります。もう私の身体はマシンですね。サクサク抜けますもの。と言うか、この能力を自覚してから一回も全力出してないんですよ？怖いですよなんか……。

まあそれはいいとして、次は蔦と固い枝で縄ばしごを作り、ブナの大量に枝分かれしてる場所に据えました。

後は手当たり次第引っ込抜いた木を手刀で乱暴に加工し、ブナにツリーハウスを拵えました。ツリーハウスは男の浪漫ですから。秘密基地的な興奮がたまりませんな。

そんなこんなで完成しました。まあ10畳ワンルームって感じですかね？中々快適そうです。このブナの木デカイですからね。これでも遠慮したんですよ。ごめんね？カーサン。ん？いやなんか寂しいから、ブナの木に”母さんの木”って名前つけました。だからカーサンなんです。

これで雨露は防げます。まあ建築士が作ったにしては粗末なもんですが……警沢は言えません。

後は山火事でも起こしたら泣けるので、河原から人の頭程度の大

きさの石を集め、寸胴三つは置きそつな「コ」の字型の釜戸を作り、河原の泥で釜戸の隙間を埋めた。料理は必ずしますからね。

まあまあ良い出来と自画自賛してみます。道具が無いのに立派でしょう？

うん、虚しいですね。うるさいです。

トイレはあれなんで、大便是川で、小便は縄張り主張の為に広場を囲むように立ちしょんする事にしました。弱い獣なら防げないかなと言う希望的観測ですけどね？

取り敢えずここまで済んだ訳ですが、かなりの労働でしたが、チート身体能力のおかげさまかまったく疲れてないのが気持ち悪いですね。良いことだとは思いますが。だけど中々馴れませんよ。未だ異世界って半信半疑ですもん。でも、もしかしたら東南アジアのジヤングルかもしれないからね？だからまだ確信は出来ません。

そんなこんなしていたら、完全に夜になったので自慢のツリーハウスで就寝です。

はあ……健康的な生活ってやつですね。

明日も頑張ろうつと。

ああ、腹が立つくらいに星が綺麗です……。

驚愕からの拾い物ッ(前書き)

ア品めりませす

## 驚愕からの拾い物ッ

やあ、山崎だよ。今、窓から差し込む爽やかな朝日で目覚めた所さ。異世界らしき場所に放り出されて一日目が終わった訳さ。

というか、ツリーハウスの下で、何やら叫び声が聞こえます。

「イヤアアアア！」って、若い女の声だねえ。ま、私には関係ない話ですわな。と言うか向こうでおやんなさいよ。わざわざ人が寝てるそばでやらなくてもさ？

しかしまあ、正直煩いなあと窓から下を覗くと、5メートルくらいありそうな巨大な熊に追われた女が、悲鳴を上げながら弓をペしペし撃っている。

ってかさ、全く効いてないじゃん……ばかなの？死ぬの？

「あーこりゃやられるな」と思ったが、人の死体は見たくないの仕方なく10メートル位の高さにある我がツリーハウスから、私は飛び降りた。やだ、格好良くない？

すかさず私は集めておいた投石用の石（野球のボール大）を、二つ三つほど熊に投げるとあっさり即死。舐めるな熊吉がッ！戦闘描写もいりませんな。

だがフードを被った女が、恐怖の表情で私に弓を向けてきた。

まあ獣に追い詰められ、さらに得体のしれない半裸の見知らぬ男



は、自分が為す術が無かった熊を石つころであっさり殺した訳だ。流石に不気味に感じるかあ……。

だがね？命の恩人に弓向けるのか？　なんかムカつくな。ようしならば戦争だ。恨むなよ？

だからまあ一応、力を加減して石を頭に投げて気絶させた。フェミニストだからね？私は。

そして植物のつるでぐるぐる巻きにしばり、ツリーハウスに連れ帰る。

あ、ちなみにローブは脱がして没収した。戦利品として頂きます。貴重な布製品だもの。文句は受け付けない。

あと弓と矢筒は火にくべた。物騒だからね？リスク管理は大事です。はっはっは

ローブの無い縛られた女は、歳はハイティーン程度かな？　やたら可愛い顔だな。身長は私より5？くらい低いから、多分175？くらいかな？肌の色は褐色だが、顔のパーツは映画レオンの「マチルダ」を、少し大人っぽくした感じですよ。コケティッシュな感じでまあ可愛い。うんうん。

胸はそう、Dカップくらいあって、柔らかそう。とても美味しそう。うだ。

不思議なのは髪の色が真っ白で光沢があり、耳が尖ってるのですな。へんなの。あれだ指輪物語のアラウエン的な……エルフか……ああ、只今ここが異世界と確定しました。泣いても良いですか？

まあそうやって、暫く眺めてたら女が気が付き、縛られた事を理解したらバタバタと暴れた。うふふ、そんなんじゃ融けないですよ？池袋の秘密サロンの女王様であるマキ様直伝の亀甲縛りを舐めな  
いで欲しいなあ。

だが、煩いなあ……

盗人ただけしい事この上ないな。このエルフ。

煩いからビツシビシと往復ビンタしたらおとなしくなった。

殺す気まんまんな目で睨むから、さらに往復ビンタしてやったら  
やっと怯えた目になり、震えながら黙った。

最初からそうしなさいや。面倒くさい。こっちの家に不法侵入し  
たのあなたよ？まずは事情聴取しなきゃならないですよ。だから私は反省もしないし、謝りもしない。

さて、取り敢えず尋問だわ。

お前なもの？どこから来た？どこどこだ？「私は燐とした声で  
言ってるやりました。

だが返事はなにやらアラビア語みたいな変な言語でよくわからん。

ほほう？しらばっくれで訳わからない言葉で誤魔化しますか？な  
ら仕方ありませんな、私も流石にムツとしました。だから

さわっ…さわさわっ…

「…!? ムー! ムー!」

後ろ手に縛られている彼女の脇腹を、フェザータッチでくすぐる。ホッホッホッ、逃げられはしませんよ? そもそも藻掻けば藻掻くほどに食い込みますからね? さあ、まだまだ行きますよお嬢さん?

さわさわっ…さわさわさわっ

「ムー! ムー! & § ツ!」

ホッホッホッ、何を言ってるか分かりませんか?

さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっ  
さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわ  
さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわ  
さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっ…

「ムー! ムムッん…ムムッ…ん…ムー!」

しよわわわ…

……この女、やってくれましたよ。失禁そして不思議な液体を吹いて失神しました。何ですかこれ。拷問なつもりが、謀らずもサービスしてしまっただようです。私の才能が怖いです。

「ナアウ……クテロ……タンスグ……レイ……」

薄ら目を開けて、所謂ア　顔を晒したおバカさんが何か言ってますね？

あー…もしかして、普通に言葉が通じないのでしょうか？あらら…なら私が悪い……いや、私は彼女にサービスしたのですから反省はいりませんよ！謝罪は断固拒否します。ですが

まあ、異世界ですしね……

取り敢えず身振り手振りはこちらに敵意は無いと説明し、拘束は解きました。ですがまた暴れたらビツシビシいきますからね？

一応、通じたみたいですね？

だから、取り敢えずこの場所から出てけと伝えてみました。何故ならば私は1人で野人ライフを満喫したいので、他人は邪魔なのですよ。

だが、女は断固拒否する。何なのですか？このお嬢さんは。私はしつこく説得するんですが、涙を流してここに居たいというニコアンスのゼスチャーをしています。

こんな綺麗な女がなんなんでしょうね？まあ、お尋ねモノなんですか？まあ、やりとりがだるいので、迷惑かけなきゃ居てもいいと伝えました。

理解したらしく、抱きついてきて感謝をしめしてきました。

まあ、いいでしょう。言葉がわかりませんし……

取り敢えず、同居人（暫定）になりましたから、お祝い変わりにシカ肉を二人で食べました。

よっぽどお腹が減ってたのでしょうね？多分？はむさぼり食べましたよ？。このスレンダーな体のどこに入るのでしょうか……

取り敢えず名無しではあれですから、自己紹介しようと私は自分が山崎という名前だと、自分を指差し告げましたら、発音しづらいのか「ザキ」と言ってきました。何か即死しそうな響きですが、まあそれでいいでしょう。

対して彼女はイルフィというらしいです。まあエルフっぽい……のですかね？。まあ知りませんが、一応これで最低限の意思の疎通はできますね。

言葉は通じませんから、まあ取り敢えず名前がわかれば不都合は

ないでしょうね。

食後に昼寝だと横になつりましたら、イルフィも寝転んできました。特にする事は無いですからね。

いま私の前にこちらを向いて横になるイルフィですが、胸が怪しくたゆむのを見て正直興奮してきました。先ほどは彼女の嬌声を聞きましたしね。

そもそも彼女服装がいきません。何やら麻みたいな素材のやたら胸元が開いたワンピースなんですよ。それだけしかないので。

しかもかなりのミニです。きつと狩り等をするのに楽だからでしょうね？ですが興奮するなつてのが無理でしょう。下着もありませんから、実は先ほどから彼女のテラテラ光ったナニかが丸見えなんです。

無意識のうちにエレクトしてたようで、じつと此方を見ていたイルフィがそつと握つてきました。男のこうした外卑た視線はすぐ女性に気が付くと言いますしね。

恩返しのもりなのでしょうか？ありがとうございます。私に遠慮の二文字はありませんよ？悪しからず。

彼女の半開きの唇に私の舌をねじ込んだら、彼女のスイッチも入ったようですね。二人して貪りあいました。接吻は快樂の入り口ですから、私は手を抜きません。

まさに交尾。言葉が分からないから余計に燃えますね。彼女の鼻息が妙に甘いです。

やっぱりまぐわいはたまりません。

イルフィも貞操観念低そうですし、野人ライフにはもってこいです。

いやあ、いい拾い物しましたね。

せつかくなのでもう一回しときましようと思ったのですが……。

えっ？  
血？



驚愕からの〴〵拾い物ッ(後書き)

改訂なので、毎日こまめに投稿します

## 理解からの〜日常ッ（前書き）

この主人公の喋り方は気持ち悪い。でも今更どうしようもないな。

## 理解からの日常ッ

やあ、山崎ですよ。すいませんね？挨拶がワンパターンで。お堅い宮仕えから解放されて、なんだか気が抜けたのですよ。

だから申し訳ありませんが、行動も自重はいたしませんよ。別に構わないでしょう？まあ、異論はあれど気にせず行だけですけどね。

さて私がこちらの世界に来て多分10日くらい経ったと思います。早いでしょう？光陰矢のごとってやつです。地球にいた頃は1日が長く感じました。5分置きに時計をみては、体感1時間にも感じていました。

最初はどうなるかと思いましたが、チートな身体能力は優秀です。狩りは楽勝ですし、身体が重機そのものって感じで、特に困難は無いですね。むしろ力を持て余します。

あ、そうそう。劇的に変わった事がありますね。

あの拾った娘のイルフィなんですが、どうやら本当にエルフという種族らしいです。お耳は長いですね？美人さんでもあります。まったく眼福と言っちゃつです。

人間とは系統が全く違う生物らしく、まず寿命が長く平均は千年〜千五百年もあるようです。

因みにイルフィは百歳弱（誕生日を祝う風習がなく、大体この位程度かしら？）と言う認識らしいですよ）なので、人間に合わせる

まだ少女と言うことです。成人は三百歳くらいらしく、気の長いことですね。

ん？なんで判ったかですか？いやエルフは魔法を使っんです。よくわからりませんが、その辺を漂っている精霊と言うものを使役して使うらしいですね。

その魔法のひとつが精神感応魔法と言い、要は通訳魔法って事です。だから今は普通にイルフィと普通に話せます。ただ、向こうからはちゃんと日本語に聞こえますが、口は全然違う形に動いてるんです。どうやら精霊さんが通訳してると言う認識が正しいのでしようね。

なんて都合のいい話でしょう……まあ私は助かるから構いませんが。

おかげでこの世界の事が臆気ながら理解出来ました。

先に手近なところから片付けますか。種族からいきましょう。まずエルフは長い寿命と単一民族思想からか、個体数が少ないそうです。三つの部族があり、個体総数は千に充たない。そして魔法を使える唯一の種族であり、その為に人間に奴隷にされたりするらしいですね。まあ、魔法とやらの恩恵に与るためにいたいけなエルフを狩る。ホッホッホッ……こちらの人間も愚劣ですね。ま、当然私は愚劣の権化を自覚してますがね。

イルフィの部族はイル・クルーツという名前で、農耕や魔道具作成をほそぼそとしている穏やかな部族でしたが、奴隷目的のエルフ狩りにあい散り散りになったのだそうです。難儀なことです。

イルフィとは、イル族の姫って意味らしく、王様の何番目かの娘だそうです。つまりイルフィはお姫様と言う事になります。

だから最初逢ったとき、やたら抵抗してたのかと納得しました。この外郎！的な感じですか？いやあ当たってますよ。私は下衆いですからね。

そんな事情であれば人間嫌いで当然でしょうね。だけどイルフィに言わせれば私は例外らしいです。彼女が言うには、私は精霊がわらわらまとわりついていて、要は常に「祝福」状態らしいです。まあお得な感じですから、少し勉強したら、俺も魔法を使えるみたいですよ。面倒だからしらないですけどね、今は。

あとはこの世界を牛耳っているのはやはり人間族で、魔法が使えないし寿命が短いですが、工業が発達しており、広い領地を支配しているようです。まあ地球の人間と野生動物の關係に置き換えたらわかりやすいかもしれませんね。

人間社会で国という単位ならば、四つの大陸に五つの国が存在してるみたいです。まあどうでもいいですがね、私には。関わらないですし。

因みに現在地から最寄りの街までは、約20？あるらしいです。近い…んですかね？よく分かりません。

人間族は他種族を迫害しています。やはり人間はどこの世界も同じで、なんか恥ずかしいですね。地球ではそうは思いませんでしたが、私が生きていた文化レベルから遙かに劣るらしいこの世界なら別です。

だって中世レベルと言う感じですから、つまりは私達が通つてきた時代の過程にこの世界はあると言えます。地球の中世レベルでは、奴隷や農奴が当たり前前にいましたから。

ならば彼らはいずれ私達と同じようになるでしょう？なんかそれって、「これが貴方の本性なんですよ」と見せられてるみたいで気持ち悪いのですよ。だからと言って私には何も出来ませんがね？まあ、可愛いイルフィが危なくなつたなら、間違いなく私は人間を倒しますけどね？

ふふふ、柄じゃ無いですか？まあ私の所有物に汚い手で触らせない。そういう事にしておいて下さいな。

話がそれましたね。後はドワーフ族、小人族、獣人族、竜族がいますが、それぞれ交わらないで生きてるらしいです。

ですが人間以外の種族は割りとうまく折り合いつけているようですね。全体的な比率は、人間7：固有種族3程度で、3の中に色々な種族がひしめいていると言う事ですね。

まあ構成はこんなもんですかね？

〈sideイルフィ〉

私は逃げてきた。あのおぞましい人間共から。我が部族の集落に卑怯にも夜襲をかけてきた。

幾人かは死んだり捕われたりしたが、ほとんどは逃げた。

私はとにかく抵抗しながら、人里離れた深き森を目指した。森は私達エルフの友人。だから必ず守ってくれるはず。

そしてやつとの思いで人を振り切った。そう思って安堵して休んできた。魔法を使えばなしで精神力は空っぽだもの。

……そこにヤツがあらわれたんだ。見たこともないような、巨大なグレイベアーだ。私は残り少ない精神力で火の魔法を飛ばしながら、とにかくあてもなく逃げた。

けど身体が言うこと利かなくなり、もうダメ！ってところで、突然黒い人影が現れて、あろうことか石を投げつけアッサリとグレイベアーを殺してしまったのだ。

ああ精霊達よ……感謝します……と、よく見たら人間ではないか！

私は動かない手で何とか弓を持つが、情けない事に弦をひく力が  
ない……  
が、男はいきなり石を私にぶつけた！気が付いたら私はす巻きにさ  
れていた。なんたる屈辱……

そして彼は私を拷問してきたんだけど、なんか気持ち良かったの  
はなんでかしら？理解出来ない。

色々あったが彼は敵意は無いから抵抗するなとゼスチャーで伝えて、私を警戒しながらも鳶を切り、私を解放した。

なんなんだこいつは。体はたくましく、顔は凛々しい。黒髪は美しいが戦士という感じでもなさそうだ。ただ異常なくらいに精霊様が纏わりついている。人間に精霊様が加護を与えるなんて聞いたことがない。

彼はさらに邪魔だから出ていけと言う。嫌だ！絶対に嫌だ！こんな状態で一人で生きてけないし、私自身、彼に興味が沸いたから。

必死に嫌だと言ってたら、彼は困ったように苦笑いをしたあと、いても良いというゼスチャーをした。

理由はわからないが、とにかく嬉しかった！はしたないが抱きついてしまった……

彼は肉を食べさせてくれた。食後、彼が昼寝をしようというゼスチャーをして、肩肘ついて横になった。

私は気が高ぶってるのか、眠れそうに無いから、形だけは横になり彼を観察していた。

彼は私の体に興味をもったようで、チラチラ見てくる。見たいならちゃんと見たらいいのにな？シャイなのかしら？人間は分からないわ。

そしたら彼の下半身はむくむくと大きくなり、腰ミノからはみ出した。私に発情したようだ。なんか嬉しい。



エルフ族は体を重ねるのは夫婦だけなのだけど、彼を見ていたら欲しくなっちゃった。何より私の命の恩人だわ。なら夫婦になるのは当然よね。

やり方は知ってる。でもちよつと怖い。初めては痛いから。でも、さっき彼が私をくすぐった時、私は有り得ないくらい気持ち良かった。失禁しちゃったしね……。なら私の初めてを貰ってもらおう。

でも言葉が通じないから、私から勇気を出して彼の分身を手で愛撫したら、一気に抱かれた。彼ったら実は情熱的？

彼も私が気に入ったの？ だったら嬉しいな。

彼は荒々しかったけど、身体中に接吻して愛してくれた。なんて細やかなんだろう？ 気が付いたらおねだりしてた。

強くて夜も遅しい。私は彼を離さない。決めた。彼は私のもの。

side out

しかしまあイルフィの魔法のお陰で火の心配はなくなりました。  
いちいち棒回しは面倒ですからね。

後は畑を作りました。と言っても、山歩きした際見つけたハーブ類ですがね。塩がありませんから、今は肉を焼くだけの食事ですが、ハーブがあれば少しはマシでしょう。

後嬉しかったのが、タバコ草が大量に群生してる場所を見付けたのです。イルフィが教えてくれました。エルフはこれを儀式に使うそうです。なのでいずれ吸えるようになるでしょう。嗜好品は心に潤いをくれますからね？

イルフィは働き者で普段は寡黙ですが、夜は甘えん坊で何回も求めてきます。

うん、イルフィを嫁にしましょう。嫌だつて言っても気にしませんよ。綺麗でアノ具合もよく、働き者ですよ？こんな優良物件絶対はなしませんよ？ホッホッホッ……。

取り敢えずいまはそんな感じですね。ではまた逢いましょう。

## 開拓からの〜豊作ッ

あれからどれくらい経ったでしょう？多分半年くらいですかね？  
とにかくこの地に根を下ろしてから随分経ちました。

取り敢えず私とイルフィは働きました。というのもイルフィが山でとれたキノコ等を、人里に降り物々交換で数々の作物の種を手に入れたのですよ。

もちろんエルフとばれたらやつかいなので、変化の魔法で男装し、フードを深くかぶり冒険者に成り済ましてですからね？私はイルフィに危険は犯させませんよ。

山に帰るときも後を付けられないよう細心の注意を忘れずにしてもらってます。風の魔法を使ってもらい、素晴らしい速さで遠回りして貰ってます。今のところは大丈夫みたいです。

イルフィには畑作の知識があり、彼女の指示するままに畑を耕し、気が付けばちょっとした学校のグラウンドくらいの広さの畑が出来ました。流石はエルフの知識です。正直感心しましたし、彼女の献身は堪らなく愛しいです。

山の腐葉土をふんだんに混ぜ、家畜（後述）の糞を堆肥に使いました。

ふと見渡すと、我ながら見事な出来だと自画自賛したくなります。

私が戯れに「イルフィ、立派な畑が出来ました。全て貴方のお陰

ですよ。ありがとう」と柄にもなくお礼を言いますと、イルフィは「気にするな。私も飢えたくは無いだけの事だ」なんて顔を真っ赤にして言います。

なんて可愛い生き物なんでしょうね。

畑は様々な作物を植えました。小麦、芋、野菜各種、ハーブ。大したもんでしょう？はやく収穫したいものです。豊かな食生活は精神衛生に一番です。食生活が荒れますと、心に余裕が無くなりますよ。皆さんもお気をつけて。

後、あまりに暇でしたので、山から粘土を掘ってきて焼き物を作りました。窯もたくさん作りましたからね。

料理の窯、炭焼き窯、燻製窯、そして焼き物の窯です。とにかく暇だけはたくさんありますから、明るいうちは2人それぞれ働き、暗くなったら眠たくなる迄イルフィと愛し合います。星を見ながらのセックスは素晴らしいです。ま、他に娯楽が無いですからね。

余談ですが、イルフィはまだ成人年齢に達してませんから、生理も排卵もありません。だから子供はまだ作れないです。なので今は奔放に彼女は楽しんでます。色んな意味で最高のパートナーですね。

私達はたくさん器をつくり、イルフィに街の商会に売らせてみたら、意外にもかなりの高評価で、コンスタントに持ってきて欲しいと言われました。

特に絵皿は人気らしく、貴族が飾るために買い付けるようで、一枚銀貨10枚で買取ってくれます。

因みにこの世界の通貨は紙幣がありません。全て硬貨で、銅貨、銀貨、金貨、白金貨が存在します。

それらは全て百枚で上の硬貨一枚に交換できます。日本円に換算すると、銀貨一枚で千円程度です。平均的な平民家庭で、毎月銀貨50枚くらいで生活できるらしいですね。

だから私の皿は一枚一万円ってことです。貴族っておバカさんですね。そういう訳で我が家は割りと裕福ですね。買うものはせいぜい調味料くらいで、後は自給自足ですから。

自宅はツリーハウスはやめて、平地に平屋の家を建てました。漸く建築家だった私が本領発揮できましたよ。嬉しいです。

それにイルフィが結界をはれるので、外敵を気にしないでよくなつたからと言うのが一番の理由ですね。

森に迷い込んだ人間には我が家は見えません。かなり便利です。

まあとにかくそうして、とってつけたようなツリーハウスはやめにして、ちゃんと図面をひいて設計したのです。

道具に関しては陶芸で手に入れた資金をもとに、色々手に入れました。まあ私が能力任せにやることは可能ですが、やはり繊細な作

業には道具は必須です。イルフィとの愛の巣ですから、そこはちゃんとやりましたよ。5LDKの平屋は中々自信作ですよ。

まあ農具も含め必要最低限な道具は手にいれました。お陰で随分と楽になりましたね作業は。

家は気候を考慮して、地中海風にしました。家中の床は自分で焼いたテラコッタを敷き詰め、壁は川沿いの土にキラキラひかる石を砕いて混ぜたものを塗り、土壁としました。

完成したときイルフィは、「こんな素敵なお家、見たことないわ！大好きザキ！」と熱い抱擁とキスの嵐をくれました。やはりイルフィは可愛いですね。そもそも現代建築から古代建築まで勉強した私ですから、当然と言えば当然です。でもイルフィがはしゃぐ姿を見れたのは重畳ですね。

その姿に欲情し、いつもの3割増し（当社比）で抱いたのは秘密ですよ？

後は畑を囲むように水路を作りました。川から直接水を引いてます。私が全て掘り、畑を含む我が敷地を取り囲み、堀のようにしました。

幅は3メートルで、内側の防水処理として山の粘土を塗ってあります。

後は橋をつくり、山への道と正面にかけた訳です。

そういえば街でキセルを手に入れたので、タバコ草を加工してようやく吸えるようになりましたが、どうやらただのタバコ草ではなく、軽くトリップする作用のある種類だった。

いわゆるカナビスとか言われる葉っぱですね。なので酩酊状態は仕事に影響されるので、もっぱらイルフィとのラブモード前に、二人でイチヤイチャしながら吸うというのが暗黙の了解となっております。必要以上に乱れ、後で冷静になった彼女が赤面するのを見るのはたまりません。

いやあ、実に快適な生活です。私は幸せですね。イルフィはどうでしょう？きつと幸せなんじゃないかと自惚れてみる私です。

最近日はがだんだんと短くなり秋が来ました。畑は作物がやまほど実り、幸せな季節となりましたね。私たちの苦労は報われました。

私達は手を取り合い喜び、とれた作物でささやかな豊穰祭を2人きりでやりました。

なんかこう……やっと異世界ではありますが、現実感が沸いたと言いますか、「ここは私のホームだ！」とやっと思えました。

うん、もはやココが私の故郷です。だからせいぜい稼ぎますよ。

そうそう、山の獣を狩っていたら、イルフィのやつが、「精霊たちがザワザワしてる」と、不安な顔をするので、街から家畜を買い

ました。獣と言えど、森の一部な訳です。

だから私達は豚を百頭、山羊を二十頭、鳥を二十羽買いました。

山にはブナやナラなど、ドングリがなる木が沢山生えてますから、イルフイに結界を張らせて豚を放し飼いにしました。イベリコ豚の模倣です。

鳥と山羊は家のそばに広い囲いをこしらえ、放し飼いです。そのお陰で、今は毎日山羊の乳を飲み、卵を食べ、時折豚を食べられます。

もっと大量に塩が手に入ったら、生ハムを作ろうと企んでいます。

ハモンイベリコならぬ、ハモンヤマザキですね。非常に楽しみです。

まあ冬になる前に塩でも探しにいけますかね。岩塩ならどこかにありそうですから。

では今日はここまでです。さようなら。



開拓からの豊作ッ（後書き）

今日はこれで最後

## 知識からの成長（前書き）

未だ説明パート終わらず。

## 知識からの成長

やはり塩が欲しいですね。贅沢言えば胡椒的なスパイスもです。食事が味気ないのですよ。村から少しは買ったり出来ませんが、如何せん高価過ぎます。これらも異世界ならでは何でしょうが、正直つらいですね。現代人は舌が越えすぎていますから。

イルフィに聞きましたら、塩の価値は一財産築くレベルと言うよりも国家レベルで貿易だ！くらいの高級品であり、当然のように戦時中の戦略物資足りえる物と分かりました。胡椒も冷蔵技術に乏しいこの世界ですから、保存を促進するスパイス類は扱える商人も限られているそうです。

ならばどうしましょうかとイルフィとヒソヒソとお話した訳です。

そこでまず、塩の製法を知識として知っている私は、海水塩をどうにかして精製し確保 それをメインに商売を 資金が潤沢になり、徐々に胡椒の栽培に着手 私とイルフィにんまり左うちわ……なんて素晴らしいのでしょうか！

という作戦ですね。ただネックになるのは二人で外に行けないってことなんです。

集落ヤマザキ（仮）を維持するためにはどちらかが残らないといけない。家畜とか畑がありますしね？結界の維持も必要になります。この世界での遠出とは、幾日も泊まり掛けでとなりますからねえ。それは移動手段が馬車か徒歩に限定される為です。

ならば私が魔法覚えて私がここに残ると言う選択もあるんでしょ

うが、イルフィが人間に見つかる困った事になりますからね。

四六時中変化の魔法を維持したら、精神力がガス欠おこすらしいですよ。怖いですね？魔法とやらは。

だから必然的に私が行くしかない訳です。イルフィがここにいる分には結界のお陰で絶対に他人に見つかりませんから。なので冬になって畑も作業出来なくなり、家に閉じこもったら習おうとしてた魔法を、前倒しして覚える事になりました。

本当に面倒な事ですね。私は魔法よりも、人外腕力で暴れる方が似合う。そう思いませんか？まあいいでしょう。いずれは必要になる力です。エルフであるイルフィから言わせれば、ここまで強い加護を持った存在は知らないと言う事ですから、利用しない手はありませんからね。これも異世界に飛ばされた恩恵？なのですかね。

とりあえず計画としては塩田作成するために、未開であり海に面した土地を見つけ、塩田を作る為の試行錯誤をしなければなりません。と言うのも私が塩田を知っていると云っても、それはあくまでも某NHKで見たドキュメンタリーでの知識です。私、建築家ですよ？塩田なんか出来る訳ないでしょう？おバカさんですね、そこまで恵まれた能力ではありませんよ。

そして運搬の為の手段の構築と、集落ヤマザキ（仮）規模の拠点を向こうにも作る事ですね。保管する倉庫も必要ですし、滞在する宿舎も必要になりますからね。いずれは海運も考えています。この国がある大陸は、言うなればオーストラリアのような巨大な島らしいですからね。ならば海運に秀でれば濡れ手に泡…そういう事ですね。

と言う事はそれなりに期間は必要であるし、いままでイルフィが使った魔法程度は必須なんですよねえ。え？当たり前でしょう？向こうにも結界が必要なのですから。塩は戦略物資と言いましたよ？この大陸にある国や商人に目を付けられたら困りますからね。騎士団を差し向けられても殺せばいい話ですが、一国の軍を相手には無理でしょう？なので魔法習得は計画を進める以上必須な訳です。

幸い私には加護がありますから、素質はバツチリなのだといルフィは言います。ただ彼女が私の先生になるにあたって不安が1つあるんです。それは彼女が物凄くノリノリだと言う事です。何ですか？あの悪魔のような笑みは。普段私が彼女を手玉（主に夜）に取っている意趣返しですね、完全に。まあいいでしょう。今夜も失神するまで犯してあげますからね？

「あ、あうっ。で、でも勉強はちゃんとするんだからねっ！」

夜犯されるは否定しないんですね？

「し、知らないっ！」

ね？可愛いでしょう？

さて後の懸念事項は、私がとうとう避けてた「この世界の人間との接触」を覚悟しなければいけないと言う事ですね。

はあ……ただの野人ライフが良かったのですがね……

まあ今はイルフィって一嫁がいますし、覚悟してみますかね。あ、どうやらイルフィも初めて契った段階で、私と一緒に生きてい

く覚悟があつたそうです。エルフは一度契つた相手と婚姻し、それはどちらかが死ぬ迄続くみたいですよ。ただ婚姻しているからと言って、他の誰かとイタしたりするのは奔放だつたりするようです。エルフと言う種族の制度での婚姻、そして長命種である為の処世術。そういう事ですね。なんだか保守的なのかりべラルなのか訳が分かりません。ただ彼女は私だけがいと嬉しい事を言ってくれます。まあ私はその限りではありませんがね……。

とまあそんなこんなでイルフィ先生に習いましたよ。え？魔法ですよ魔法。展開早いですか？仕方ありませんね。私達の日常は、基本的には畑いじりしかしませんから。だから割愛しますよ。

＼side イルフィ＼

久しぶりの登場ね。ベ…別に出来たかった訳じゃ無いんだからね！ザキがどうしてもって言うから、仕方なくよ。ちよつとザキ！後ろでツンデレ乙とか煩い！私はクーデレよ、クーデレ！コホン……見なかつた事にしてちょうだい。殺すわよ？

あのね？勘違いしたらいけないのは、魔法に属性だの長つたらしいスペルとか、そんなメンドクサイことは無いのよ。

要は自分が起したい現象に必要な数の精霊を、ちゃんと集めら

れたら良いって訳。後は具体的に「こうしたい」って言うイメージを精霊達に伝えられたら、後は勝手にやってくれるわ。それを分かり易くした言霊はあるけどね？

どうかしら？簡単でしょでしょ？

私ができるのは結界を張る、火を起こす、風をふかせる、体を治癒するかな？まあ例えば火を起こす場合の精霊数を増やせば、当然火力は上がるわ。

後は精霊に球状で飛んでとか、焼き払えとか、指向性を与えたりとか……

つまり最低限の事象を基本にして言霊で指示し、後は応用を効かせた言霊を考えたらオリジナリティがある魔法が完成って訳ね。ただ、精霊に干渉する段階で精神的に疲れるのよ。だから連発は厳しいわ？後はそうね、顔を変えたりとか持続するタイプのは、一定時間が経過すると帰っちゃうのよ精霊が。飽きっぽいのかしらね？

ザキの場合は呼ばなくてもその土地の精霊が勝手に集まって来るから、使役の手段さえ判れば多分、ザキの存在そのものが力というか、気分次第で国一つ焼き尽くせると思うわ。だって精霊に干渉する際の精神的な疲れが無いもの。呼ぶ必要が無いのだから。

なんていうか、ムカつき？一応私はお姫様として恥ずかしくないように……って言うレベルまで、爺のスパルタというか、O H A N A S H Iされ続け、必死に努力したのよ？

なのに何なのザキって……やってらんないわ。才能とかのレベル越えてるってば。言わば彼自身が精霊の棲家と言えれば分かりやすい

かしら？そういえばザキつては気付いてるのかしら？エルフが長命なのって、精霊の加護があるからなのよ。……ザキつて死なないんじゃないかしら。加護なんて規模じゃないしね？ふふっ、ならザキといっぱい一緒に居れるし嬉しいわ？

はあ…説明終わり！

今夜も搾り取ってるからね。覚悟なさい！ふふふふふふ……いや、いつもコテンパンにされてるんだけどね……。

side out

……なんか寒気がしますね？またよからぬ事を考えてませんか？イルフィ。

そんなこんなで取り敢えず座学は終わりました。なので後は実際に精霊とコミュニケーションし、実践あるのみ、と言う訳ですね。

イルフィが言うには森のなかに座って瞑想をすると良いらしいです。そうすれば才能あれば感じられるそうです。そして私は加護が既に強いので、問題なく干渉できるとのお墨付きを頂きました。



私はカーサンの木にもたれかかり目を閉じます。

静か…ですね。

日本にいたら、この静寂は感じられないでしょうね。思わず色々な事を考えてしまいます。多忙だった毎日。目的もなく、ただ生きるために生きていた私の人生。本当は建築家としてデザインを売る仕事をしたかったのですが、私程度の甲斐性では無理でした。そんな事をつらつらと考えていましたら、何やら身体に循環しているような違和感を感じました。ただ嫌な感じはしませんね。これが精霊…ですかね？…ZZZ

……

……

…くいっくいっ

んっ…ぐじちら寝てしまったようですね……。

……くいっくいっ

なんですか？

何やら体のあちこちが引っ張られる気配がしますね？

目をこらして見てみたら、目の前にワラワラと半透明のブライス人形のような精霊がいました。可愛らしい女の子に見えますが、大きさは5？程しかありませんね。彼女達は口々に何かを言ってますが、私にはキュイキュイとしか聞こえません。何と言ってるのでしょうか？ただ悪意は感じられません。ただ私に興味があると言っているでしょう。

その中の割りとき大きなやつに私は手を伸ばしました。

それは一瞬、笑ったような表情をしました。そして次の瞬間、精霊達が一気に私の体に吸い込まれていきました。と言うより、嬉々として飛び込んだが正しいですね。

すると、体が軽くなるといいますか、力が漲る感じが凄いするんです。素晴らしい高揚感を伴って。

イルフィは精霊を感じたらイメージしながら言霊を唱えろと言っていました。言霊と言っても単純で、【起したい現象＋求める威力＋細かい条件】と言う組み合わせを唱えます。

具体的には「我は求む、大いなる火を。我を阻む敵を包み、焼き尽くせよ」と言う感じですね。これはイルフィが考えた言葉なので、アレンジは自由にだそうなんです。要は頭の中のイメージと結び付けば良いわけですね。

私はとりあえず指先にライターくらいの火をイメージしてみました。

「精霊さん達、私は火種が欲しいのです。さあ出しなさい」

ぼっ……

普通に出ましたね…なんか感動もありません。まあその後色々試してみました。火、風、雷、結界は出来ますね。治癒も出来ますし、さらに肉体強化も出来るようです。私にこれ以上強化しても仕方なさそうですが。

足に精霊を集中させてみたら、私は風になりました。ふむ、イメージ次第でどうにでもなるようですね。

因みにちよつと調子に乗って走り回っていたら、大木にぶつかって額が割れました。ホッホッホ……。

実はそのおかげで治癒魔法が使えるのがわかったのですけどね！とりあえず、一通りできたので満足としましょう。これで近いうちに旅に出れる訳ですから。

むう

出発までに出るだけイルフィと交尾しましょう

こうみえて実は寂しがりや何です。言い触らしたら殺しますよ？ホッホッホ……。

## 冒険からのくっつ？

……山崎ですよ。いりますか？このくだり。まあいいでしょう。ホッソホッソ…今回は、魔法使い山崎！いえ、華麗なる魔法使い山崎です。私の戦闘力がとうとう53ま…スパーン！！…痛いですが、イルフィにハリセンで殴られました……

では気を取り直し…私は魔法とやらを習得しました。ですので塩を求めて旅に出る事にしました。まあ計画してた事ですからね。

ですが旅に出ると言う事は、裏を返せばこの世界の文化や人に私に触れなければならぬという事なのです。本当に面倒ですね。何か厄介事の香りがぶんぶんしますよ。あ、またもやフラグですね。まあいまさらでしょう。

という事でこの世界の常識というものを少し、イルフィに習いました。すみませんね？説明ばかりで。これも様式美です。諦めて下さいね。

まず今いる大陸は「東の大陸」といいます。はい、分かりますよ、言いたい事は。ですがね？この世界の言語での表記では、イーステニアうんたらかんたらと言う、ちゃんとした読み方あるんですよ？

ですが…ホラ？

私はあくまで精霊魔法で会話や理解してる訳ですから、当然の如く日本語で会話してるように感じるわけです。一応文字は覚えましてよ。当然じゃないですか。ホッソホッソ……。

で、この大陸を領地としている国が、「グランピア王国」という  
そうです。

王国つてことは王様いるんでしょうね。む…王冠かぶってヒゲ生  
やしてたりするんですかね？あらら、とても見たいかもしれないで  
すね。白いタイツとか履いてたら、指差して笑ってやります。

話を続けます。中にはいくつかの街や村があちこちあって、人間  
以外の種族の自治区もあります。その為何ヶ所か関所があると言っ  
事です。

それが面倒なもので、一番近い街で冒険者ギルドに登録する事に  
なります。

つまり冒険者になればIDが手に入り、ある程度自由に旅が出来  
るのです。凶悪なモンスターを駆除する冒険者は優遇されるみたい  
ですね。まあ国としては軍を派兵するより安価ですから当然と言え  
ば当然ですね。まあ、いまはこんな所でいいでしょう。

爽やかな秋晴れの空で、少し肌寒いのが心地いいです。そろそろ  
ベッドから出ましようかね。出ましよう…出ましよう…イルフィさ  
ん？寂しいからとかいって、寝ないでやりまくってたんですから、  
そろそろ離して…あ、啞え…いやっ……らめえ~~~~~!!

## 二時間後

なんだか疲労感漂う私です…… やつと解放されました。気を取り直し旅に出ます。

まあ、ぶつちやけてしまえば転位魔法使えばすぐ戻れますから、実際は寂しいとか無いのですよ。あれから私は色々魔法を研究しましたよ。それで分かったのは、私の加護は肉体能力以上に人外でした。まあそついう事ですね。

さて取り敢えず一番近くの街を目指す事にしましょうかね。じゃイルフィ、行ってきますね。なんだか艶々してるのが少々ムカつきますね。可愛いから許しますがね。惚れた弱みですかね？

現在私は「商業都市 ザイオン」に向かっている訳ですが、方向とか合ってますよね？え、知るかって…… そりゃそつですね。ホッホッホ……。

まあイルフィ曰く「あっち」を指摘しているんですね。多分20？はきたでしょうか？少し不安になっただけですよ。そもそも景色に一切の見覚えが無いのですから当然でしょう？

おや、街道がありますね？

まあ街道と言いましても粗末な未舗装の道ですね。こういうのを見れば、文化レベルのギャップを感じられますね。はあ、現代人は切ないですね。

おや？第一村人発見ですよ。声かけたらあっさり道案内してくれました。渡りに船ですね。

ホツホツホ…単純ですね？私が強盗だったらどうするんでしょうね？このお姉さんは。いや、明らかに私より年下でしょうから、お嬢さんですかね。

まあ我が愚息がピクリともしないので、見逃してやりましょうか……いえ、すこし初めてのおつかいではしゃいできました。お恥ずかしい。

実際はおとなしく着いていってますよ。しかし景色変に代わり映えがしなくつまらないですね。

がさがさー！！

「ヒヤッハー！ここは通さねえぜ！ 金目のもんおいてきな！」

出ましたよ見たままそのまま紛れもない山賊ですよ。それでいてザコ臭がする山賊が三人現れました。

ちなみにヒヤッハー言つてた方はモヒカンでした。これも様式美です。諦めて下さいね？

お嬢さんは「きゃー」なんて言ってますが、まあ戦闘描写も勿体ない雑魚なんで、こつそり頭に発火させたら逃げていきました。

やはり汚物は消毒するに限りますね。そう思いませんか？お嬢さんは目を白黒させてました。私も「わあ、燃えてる。なにそれ怖い」と言う怯えた演技してやりました。ホッホッホ……

魔法使えるとか言わないほうがいいよってイルフィに言われましてからね。まあ当然ですね。魔法を使いたいが為にエルフが狩られる世の中なのですから。わざわざ面倒の種をまく必要はありません。

とか言っている間にザイオンの門が見えてきました。中々立派な門構えです。裏を返せばそれだけの外敵がいると言う事なのですかね？まあ私には関係ありませんが。

お嬢さんとお別れした私は、目的である冒険者ギルドを目指します。私とイルフィの明るい家族計画の第一歩ですね。

ではこの辺で失礼しますね？ホッホッホ……。



登録からの〜あれっ？(前書き)

だから下品ですいません

登録からの〜あれっ？

やあ、山崎ですよ。やはり私はこの流れは必要かと思うんです。ですから敢えて言います。私は山崎ですッ！はい、しつこいですね。では、始めましょうか。

私は今、商業都市ザイオンの門に、それはそれは勇ましく立っております。私の輝かしい人間界デビューですからね。そこ、引きこもりとか言わないで頂きたい。殺しますよ？

さて、私をここまで案内して頂いたお嬢さんですが、「山賊はギルドで賞金首になってるから、証拠になるものを持ってくべき！」言うのですよ。お金になりますからね。

だから私は考えた訳です。証拠と言ったって、顔くらいしか識別できるのでは？と。

お嬢さんは、「はあそうかもしれない」と言うもんですから、私も「そうですね」なんて笑顔で首を次々刎ねたわけです。ナタで。

そしたらお嬢さん、あからさまに私も気味悪そうに見るのですよ。失礼だと思いませんか？

それで門についたなら、「お疲れ様ですう」なんて営業用スマイルでさっさと中に入っちゃったのですよ。

そしたらすかさず門番の方が、「お前、怪しい…実は山賊なんじゃないの？」みたいな事を言うわけですよ。これには普段温厚な私

でも憤慨した訳です。

私はね？ムツとした勢いで「貴方、一度死んでみますか？」なんて黒いオーラ出した訳です。そうしたら隊長とか言う人が来た訳ですよ。

それで最初の状態で門の前に立ってると言う事です。呆れるでしょう？何やらギラギラした目で10人くらいの門番に囲まれているのです。

隊長と言う人はどうみても若い女で、胸はととても残念なんだけど、唇が厚ぼったくて、しつとりしてて……

何より鎧が「なにそれ……守る気無いですよね？露出狂なんですか？」と問い詰めたいくらいの露出でして、何でしょう？今すぐ飛び掛かって、荒々しく後ろからイタしたい衝動に駆られますね。

ふう、取り敢えず落ち着きましょう。この状態では埒があきませんから。

「さてお嬢さん、この無礼な態度に対しての謝罪はあるのでしょうか？」

ふふっ……決まりましたよ完全に……私は体をすこし斜めにし、足は肩幅に開きます。両手は開いて広げ手をくいつくいつとやりながら、顔は少し尊大な表情で言い放った訳です。格好よくないですか？私。

そしたら門番達が怒号と共に飛び掛かってきたのですよ。失礼に

も程がありますね。まあいいでしょう。死なない程度に懲らしめてやりましょうか。全くおバカさん達ですね。

だいたい、「怪しいやつめ!」「隊長に失礼だ!」「イケメンは氏ね!」「モゲロ」等と口々に叫んでいます?後半意味わからないですよ。そもそも私はイケメンではありません。ただの紳士です。

では、お仕置きの時間ですッ!!

「さて、そこらに群がる蟲のような生物を、荒れ狂う暴風を集め、遙か彼方へとぶつ飛ばしてあげなさいッ!あくまで常識の範囲でッ!!!」

あらあら、おバカさん達は「何こいつ、頭おかしいの?」「みたいな目で見ていますね?ホッホッホ……

ヒュウウウウウ……

「!?!?」

「な、なんだ!?!?」

さあ、来ました。精霊さん達、やっておしまいなさいッ!!

ドヒュアアアアアア!!!!!!

『ワアアアア……』

いやあ、さすが竜巻。よく飛びましたね?……ああ、精霊さん達、張り切り過ぎましたか?ね?……見えなくなっちゃいました。まあ死んだらごめんなさい。でも自業自得ですからね?

あらあら、隊長さんぽかーんとして、「ふえ?あれ??人間なのに魔法?」とか言って固まってますね。まったくおバカさんの極みです。

ホッホッホ……

ホッホッホ……

ああ私、興奮のあまりすっかり忘れてました。イルフィにあれ程言われていたと言うのに。え?魔法は隠しなさいと言うアレですよ。ほら、人間は魔法を使えないらしいですから。

いやあ、どうしましょうか？困りましたね。あ、でも隊長さん固まっていますから今のうちに……。

「あとう、どこ行くんですか？」

いえね？ちよつとそこまで用事がありましたね？

「それが通用すると思いますか？」

まあ、無理でしょうね？いつそ見なかった事になんて如何ですか？

「ごめんなさいそれは無理ですう」

あらあら、困りましたねえ。

「あとう？ お兄さんは悪い人ではないです…よね？」

「はい、私は悪い人ではないですよ。むしろ、悪い山賊を退治した良い人ですね？見ますか？首」

私は山賊達の首をぶらぶらと隊長さんに披露しました。

「ふむー。なら入っちゃっていいですよ！お兄さんは山賊を倒したようですし。」

私は「ありがとうございます」と、彼女の頭を撫で撫でしたら喜んでました。身長が小さいので、丁度いい高さに頭があったのでつい撫でてしまいました。いやあ、頭が弱い子でセーフでしたね。

さあこれで問題解決ですね！では張り切って参りましょうか。いざ、冒険者ギルドへ出発です！

と、歩を進めた私の襟首が掴まれました。

「あ、そうそう、魔法のことをOHANASHIしましょう？」  
と、隊長さんは笑顔で言いました。目笑ってないですよ……。

はあ困りましたね。どうやらやり過ぎす事は無理みたいですね。  
ならば……。

「別に話してもいいですけど、今夜私の泊まる部屋でなら話しますよ。誰にでも話せる内容ではありませんからね。それが無理ならば、私は全力を持って抵抗して逃げますよ？」

さあ隊長さんはどう答えますかね？普通なら私はここで拘束されるでしょうがね。まあ最悪は隊長さんもろとも押し通るだけですがね。

「わかりましたあ。ないしょ話ですね。勤務が終わったら伺いますう」

彼女はボブヘアをぴよぴよ揺らして手を振ってくれました。あらあら……なんて言いますかとても可愛らしいですし、厚ぼったい唇がとてもしゃらしいですね。

私、今夜この娘頂くことにしました。無防備な隊長さんがいけないのですよ？ホッホッホ……。

そんなこんなで色々ありましたが、私は冒険者ギルドに来ることが出来ました。余計な手間でしたがね。まあいいでしょう。

さて、冒険者ギルドですが、まさにギルド！と言いますか、中に入ったら西部劇に出てくるパブみたいな内装で、カウンターには胸にメロンを2つぶら下げたような、凶悪過ぎる乳の素朴な田舎娘が座っていました。

取り敢えず、是非挟ませて欲しいものですな。何を？欲望と言う男の浪漫に決まっています。



「いらつしやいませ。冒険者のかたですか？」

うん、舌たらずで可愛い声です。その唇で私の猛るマイサンを是非啜えてもらいたい。え？だから…いえ、止めましょう。

「あの一？……」

「ああ、申し訳ありません。私はまだ冒険者じゃなくてですね、登録をしたいのです。ついでに道中出くわした山賊を退治したものですからその確認もですね？」

「あ、はい了解しました。じゃあ軽く説明しますね」と、メロン娘は説明を始めました。

ギルド登録した冒険者は、他の大陸のギルドでも依頼を受けられる事。

冒険者はランク分けされており、下からE・D・C・B・A・S・SSと、なっているようです。

初期ランクは登録時に力を計測して決まるようです。計測機はエルフ謹製の魔道具だそうです。エルフを迫害している実態をしっかりとっては少し複雑ですがね。まあ今は仕方ないでしょう。

Aランクまでは依頼を達成してポイントを貯めるか、またはギルドからの依頼の中でランク認定依頼を達成すればあがるようです。

ランク認定依頼とは、例えば長期に渡って討伐されない魔獣と言われる化け物モンスターが出現した際に、活躍してる冒険者にはギルドから直接依頼が入るのです。

まあそういう危険な依頼を達成したら、その危険さに応じてランクアップするのです。

因みにAランク以上は、災害指定魔獣と言う凶悪な、つまりはその名前が示すように、災害じみた被害をもたらす非常に危険なモンスターを討伐したら昇格できるようです。一種の名誉職に近いようです。まあ私には関係ありませんね？IDが欲しいだけですから。

報酬は依頼料の1割がギルドの取り分という事で、掲示板などに張り出される金額は既に差し引かれた金額と言う事です。

キャンセルと断念した場合はペナルティとして、依頼料の3割の罰金を払わなければならない様です。まあ当然でしょうね。

因みに依頼は一度に一個しか受けられず、自分のランク+1ランクまでしか受けられません。身の丈にあった事をしなさい。無理はいけませんよ？と言う事でしょうね。

そんな説明を受けた私は登録の意志をつけ、ランク計測をしてもらう事にしました。

計測は変な箱を持たされ、スイッチを押されます。すると幽かな振動と共に、羊皮紙に勝手にペンが動き始め、今まで倒した魔獣の内訳が書かれました。さすが魔道具、摩訶不思議ですね？

結果はAランクでした。

ほら、私はこちらにやってきて、でかい熊や山の獣を狩っていましたから。まあ食べるための狩りを毎日していましたしね？そしてどうやら私達が住んでいる森は、危なくて誰も近寄らないらしいですよ？私はそんな場所に放り出されたのですか……。

まあいいでしょう。今生きているのですから。

メロン娘は驚愕してますが、そんなの私には関係ありません。

詳しく聞きたがっていましたが、私が笑いながら「ベッドの中なら話してもいい」と言いましたら、頬を染めて「考えてみます……」とのことです。真に受けられても困りますよ？

まあ期待に胸と股関を膨らませましょうか。すいませんね？下品で。まあいまさらでしょう。気にしないでください。

そうして私は、晴れて冒険者の仲間入りと言う訳です。え？隊長さん？あなた、寸どめと言う言葉を知っていますか？では次回に会いましょう。ホッホッホ……

あ、そうそう。山賊三人の報酬ですが、サラリーマンの一ヶ月の給料程度でした。生命の値段にしては安いですね。私には関係ありませんがね？

黒光りからの〜桃色ッ(前書き)

ト品でッ

## 黒光りからの〜桃色ッ

こんにちは、山崎です。いや、今は冒険者山崎ですね？ホッホッホ…ちょっと得意気になってみましたよ。

そういえば私、前はさらりと流していましたが、私、人を殺しました。いくらやむを得なかったとは言え、一度に三人もの生命を……。

考えてみればいくら悪党とは言え、ひよっとしたら彼らは家族の為に生命を張った結果が山賊だったのかもしれない。

この世界は確かに生命が軽いです。ですが何も殺さなくても良かったかもしれない。

私は……

私は……どうしたらいいのでしょうか。

私は簡単に他者の尊厳と生命を刈り取り、大した罪悪感もなく居たわけです。

あの時の光景がフラッシュバックします。

彼らは私に括り殺される瞬間、濁りきった目で私を見ていました。

私は……

わあああああああああああああああああああああああああ  
あああああああああああああああああああッッッ！！

私にはそういう鬱展開はありません。あれ？罪悪感なんかあるわけ無いじゃないですか？なんで全く愛着もない世界の人間を気にしなければならぬのですか？

私は私の邪魔をするものは叩きつぶします。家の中に黒光りする例の虫がいたら貴方、どうします？

躊躇などせずに排除しますよね？私にとってこの世界はその程度の物です。

イルフィなど身近な人以外はどうでもいいのです。まあそういう事です。そもそもこんな異世界ですか？こんな状況に私1人で放り出されて、何故優しくなれなれますか？知りませんよ。

だいたいですね？地球みたいに人間以外は動物ですみたいな二択では無いじゃないですか？この世界。

獣はいますが、獣と人の中間みたいなもいますし、人型ですつただけでいちいち罪悪感感じてたら生きていけないですよ。むしろ腹の中真つ黒な人間よりは、フカフカの獣の方が価値がある。そうは思いませんか？

多分ですが、種族や見た目云々で線引きは出来ないのです。要は相手の行動で善悪を判断して、自分で決めるしかないのでしょうか。その結果は当然、自分で背負うしかない訳ですし。なら私は好きにやらせてもらいます。そういう事ですよ。

少しだけ昔話をしてよろしくですか？まあ嫌だと言っても話しますがね？

私はかつて、スペインの建築家、アントニオ・ガウディに憧れてました。きっかけは憶えていません。ただ小学生時代に強烈な憧れを憶えました。

それ以降、私は将来の夢として建築家と言う目標を持ったわけです。私は絶対に自分の頭の中にある物をを自分で建てたいと、寝る間を惜しんで勉強しましたよ。無茶をして偏差値の高い工学系の大学にも行きました。

実際に一級建築士の資格をとるのは大変なんですよ。実務経験が資格取得の試験資格にもなっていますからね。

ですが、実際はどうでしょう。大学のOBのコネクションで就職

した大手ゼネコン。私は日々パズルのような建物を作る　と言うより、大学出の私が現場を任されて偉そうにしている毎日です。知っていますか？日本の一流企業は、学閥が物を言うのです。くだらないでしょう？

そして気が付いたら、私は毎日毎日ビルばかり作っていました。苦勞して建てても、時間が経てばただのビルです。ただ人が通り過ぎていき、誰も気には留めません。

あの憧れていたバルセロナの青い空に突き刺さる、サグラダファミリア。あれをガウディは楽器だと言いました。吹き抜ける風が、音を奏でる巨大な管楽器です。

結局、私は一度も目の前に立つこともなく、ここに来てしまった。資格は取れましたが、私が為した事は企業のいち歯車だったと言う結果のみです。

ですから私は、この世界で、私のサグラダファミリアを建てましょう。それがどんな形かはまだ分かりません。ですが何か私がこの世界に來た意味は残したい。そう思います。

私は勇者なんて柄ではありませんし、他人が喜ぶ為に我が身を捧げる気は一切ありません。むしろ私の目的の為に蹂躪しますよ。その第一歩として商売は成功させます。現代人を舐めない方がよろしいですよ？原始人の方々？ホッホッホ……

さて、山賊等はどうでもいいでしょう。ひとまず宿屋を探さなければなりませんね。大通りの小綺麗な宿屋にしましょう。ベッドがフカフカなのは重要ですからね？え？意味はわかるでしょう？ホッホッホ……



さて、特にいまは何もする用事はありません。え？街をぶらついたり武器屋を見たりしないのか？あなた、私が武器が必要だと思えますか？殴るか精霊さん達に頼めば済む話でしょう？まあそういう事です。

そうして私は通りで一番良さそうな宿に決めました。お金に余裕はありますからね。ほら、先ほど臨時収入が入りましたから。

私は部屋に入り、造りの良いキングサイズのベッドに仰向けになりました。吸い込まれるような心地がします。

この世界に来て初めて他人に触れ合った事で、少々気疲れしたようです。申し訳ありませんが、少し眠らせて戴きますね……あふつ……。

私、昔からこのじわーっと身体中の疲れを感じる寝入りばなが好きなんですよね。ああ、私は今日も頑張りましたと実感できる瞬間なんです。

そうして小一時間も眠った頃でしょうか？誰かが部屋の扉をノックしたようです。

「こんばんわあ〜 探しましたよ〜」

隊長さんでした。中に招き入れた彼女を見て、しばらく停止してしまいました。あまりに昼間の印象とは違いましたからね。ええ、とても美味しそうです。

彼女はレモンイエローのワンピースに身を包み、昼間はパサパサだった赤毛のボブヘアをきちんと梳かしてありました。彼女は前髪が眉毛の上で真っ直ぐにカットされており、それが彼女の快活な印象をさらに良く見せています。

身長は150?程度しかありません。こうやって私服を見れば、ただの女の子みたいですね?隊長さん。大きな瞳とアヒル口、うんととても可愛らしいですよ?隊長さん。

「あゝうゝ照れますうゝ」

あれ?私、もしかして声出てました?

「は、はいです」

あらあら、これは失敬しましたね?いやあお恥ずかしい。ホッホッホ……まあ、気にしない気にしない。一休み一休み……あふっ……ZZZ……

「ね、寝ちゃダメですよゝゝ!」

おやおや、短いオテテをばたばたさせて慌てていますね。これは

可愛らしい。さて、からかうのは止めますか。

そもそもこんな女性と言うよりは少女と言える隊長さんですが、よく隊長にまでなれましたね。何か特殊な力でもあるのでしょうか？まあこれも異世界だから…なのでしょうね。

「では自己紹介でもいたしましょうか。私はヤマザキと申します。歳はヒ・ミ・ツです。座右の銘は、喰う 寝る 遊ぶ です。よろしくお願いします」私はキリリとクールに自己紹介致しました。

「えっと、わたしはアキ・ウイユヴェールです。この街の警備隊長をしています。20歳です。よろしくお願いします、ヤマザキさん」

ホッホッホ……

「な、何ですかあ？」

ホッホッホ……

「ななな何ですう？」

「嘘はいけません嘘は。あなた、どうみても15歳にしか見えません。さあ、全部吐いて楽におなりなさい！」

「わ、わたしは嘘は言ってますんよう！幼い見た目は気にしてるんですから言わないでくださいですう」

「……………はい」

「あ〜う〜まったく信じていない目ですう〜」

まあ、いいでしょう。では根掘り葉掘り聞かれる前に、魔法の事を話して聞かせましょう。90%の嘘と10%の真実で。誰が馬鹿正直に話しますか。私になんの得にもならないですからね？

さあ行きますよ！実は私は子供の頃に親に山に捨てられました。お腹を空かせ泣いてた私はエルフに拾われました。そのエルフは人間とエルフの寿命は違うから、いずれお前とは別れなきやいけないと言いました。

だからいつ別れてもいいように生きる術をお前に教えると言いました。そして俺は魔法を教わったと言っ訳です。ですがそれは辛い修行で、私は何度も死ぬ思いをしました。

で、今は一人前になったとお墨付きを貰った。そして今、見物を広めるために旅をしてるんだ。

と、半分自分に酔いながら辛い身の上話(嘘)を話してたら、アキは何を勘違いしたのか泣きながら、「可哀想ですう…よしよし」と、ベッドに座る私の頭を抱えながら、頭を撫でてきました。

ええ、胸が顔にあたりますね。あれです、この世界にまだブラジヤーとかないのですね。ん？ 布地越しにコリコリした何かがありますね？

A r e y o u r e a d y ?

Y a . I - m r e a d y .

「ふえ？」

ゴ—！ゴ—！…

「はわわわわっ！」

私はそのまま彼女をベッドに押し倒しました。あわあわしてるアキの唇を俺の唇でふさぎ、可愛い舌と、蠱惑的な下唇を食った。

「申し訳ありません、いきなり。ですが、今まで淋しかったんです…。優しくしてくれてありがとうございますアキ？」

私は”何かを訴える子犬のような瞳”と言う魔眼を解放しました。

うるうる。

「はわわ…あう…はいですう……」くてん

勝利です。完膚無き私の完全勝利です。では遠慮はいりませんね？

私はアキのワンピースを上押し上げ、控え目な胸を露出させます。その膨らみは、丘というくらいですが、その頂きには桜が咲いていました。

その桜を優しく啜え、軽く吸いながら、口の中で舌で転がします。瞬間、アキは電気が走ったように仰け反り、身をよじります。

囁くように、羞恥を纏わせ漏れる喘ぎに、もっと苛めてやりたくなります。

私は体を上にずらし、アキに再度口付け、今度はさっきより荒く、口腔内を犯します。

舌を、歯茎を、上顎を

唾液が混ざる音と、切なげなアキの喘ぎだけが部屋に響きます。

私は彼女のショーツを暴き、中へ

【自主規制が発動しました】

私の背後で衣擦れの音が聞こえます。相変わらずあわあわ言ってますね？ああ、どうなったかですか？

「アキさん、ご感想は如何でした？」

「あ、えっと、はふう……まだ何か挟まっている気がします」

「なるほどなるほど、どうやら初めてだったようですが、気持ち良かったですか？」

「あのっそのう……はいっ……」

だそうですよ？私も具合が良かったと言っておきましょう。ベッドでは彼女も子供ではいられなかった。そういう事です。

私達ははそのまま眠ってしまったようで、朝の鳥の声で目覚めました。

横で眠るアキの寝顔に優しくキスをして。私は黙って眺めていると、やがてアキの目蓋がピクピク震え、目があきました。

彼女はまだ覚醒してないのか、ぼーっとこちらを見ているが、

やがて目を見開き、顔から音がするほど一瞬で真っ赤になりました。

そして慌ててシーツで目の下あたりまで隠しました。

「……あんまり見ちゃダメですっ……」

私は野獣になりました。

ホッホッホ……



イルフィの憂鬱(前書き)

イルフィさんのおはなし

## イルフィの憂鬱

カーサンが見守る小さな集落

主がいない母屋は明るい日差しが入るも静寂が包む。母屋の横には鳥や山羊が草をほみ、変わらぬ日常がそこにあった。

そこから少し奥に目をやれば、黄金色に実る麦畑がみえる。その真ん中に彼女は一人、佇んでいた。

「あーあ。行っちゃったな」

2人しかいないこの集落のもう1人の住人、イルフィは呟いた。

彼女のその完成された芸術のような美しい顔は、どことなく暗い。だとして彼女の美しさを損なう理由にはならないが。

彼女の溜息の理由は、先ほど旅立っていった愛すべきパートナーのせいだ。

イルフィは彼に出会い、そして変わった。価値観そのものが根底から覆された。いや、無理やり引っ繰り返されたが正しいのかもしれない。

それまでイルフィは、ここから遠く離れた場所にあるエルフの集落で、王の娘としてその責任を果たしていた。

好きで王の娘に生まれた訳ではないが、それでもそれが当たり前だと信じていた。だが彼女は外に違った世界があるのを何かの拍子に知ったのだ。それはある種の麻薬に近い効果をイルフィにもたらした。

エルフとしての生き方とは、種族を後世に継続していく義務が中心である。個人の考えや、思惑、それよりもエルフ全体の存続が大事にされるのだ。固体数が少なく、繁殖力もそれほど高くはないからこそ、それは当然とも言える。

イルフィはそれはきつと大事な事であるとは判っている。だが彼女はその役目は自分じゃなくてもいいのでは無いか？と、常々感じていたのだ。外の世界には違った文化があると言う麻薬を知ったから、尚更に。

そしてある日、人間達が集落を襲ってきた。エルフの英知を独占せんと。精霊に干渉出来ない人間による、エルフ狩りだ。人間達はエルフを捕らえ、魔導具を作らせ、女は慰み者にする。能力が低いエルフは奴隷として売られる。人間の美的感覚から見れば、エルフは全て美男美女である。だからいくらでも需要はあるのだ。

イルフィは思った。人間とはなんと欲深いのだろうか。エルフの英知を手に入れた所で状況は何も変わらないと言うのに。

生活や技術が向上して一時の権勢を誇った所で、また違う誰かがそれを奪うだけだ。人間は昔からそうして戦争を繰り返していたじゃないか、と。

その虚しい欲の為に、なぜ同胞が死ななきゃいけないのか？死にたければ勝手に自分達で殺しあえば良いだけの話ではないかと。

イルフィはくだらないと吐き捨てた。だが彼女はそれと同時にこれはチャンスなんだと思った。この血にまみれた事件は、自分を運命という鎖から解き放つチャンスだと。

だから逃げた。

母が身内が呼ぶ逆方向に走ったのだ。

罪悪感はない。ただ、解き放たれたかっただけだ。

立ちふさがる人間を切り裂き、突き刺し、射ぬいて、殺した。イルフィの周りには血の雨が降り、彼女を紅く染めた。それでも彼女は止まらない。躊躇しない。

何故ならば、その躊躇こそが鎖そのものであるからだ。なんの躊躇か？一族の責任から逃げる事の罪悪感だ。或いは情と言い換えても間違いないだろう。

だがイルフィは躊躇を引き裂き、そして走り続けた。その先にあるものは希望と信じていたからだ。

だから走った。幾日も走り続けた。彼女が目指したのは未開の森だ。そこならエルフも居ないだろうから。

だが彼女は今、力尽きようとしていた。皮肉にもエルフが森で共存していた獣の手で。

その大型の熊が彼女の生命の灯火を消さんとしたその時、一陣の風が吹いた。

或いは暴風と言えるかもしれない。そしてその風は彼女の脅威を殲滅した。ただの一瞬で。

その暴風は人間だった。

彼は彼女の前に立ちふさがる脅威ではなく、救世主<sup>メシア</sup>となった。

彼は彼女が怯えて噛み付いても、傍若無人にそれをふみにじり、自分の常識では及ばない行動で応える。

まさに衝撃だった。最初は人間だと思ったが、人間がこんなに精霊に愛されている訳が無いのだ。人間に似た、何か強大な存在としか言えない何かだった。

彼女は無我夢中で彼にすがりつき、そして契った。

彼は新しい世界の扉であり、希望であると彼女は思ったのだ。

だから彼に縛られなくなった。そして彼を縛りなくなった。解放と言う名の鎖、がんじがらめになってしまいたかった。

彼に抱かれた彼女の中に生まれたのは、歓喜。

そう、彼女は知ったのだ。魂が溶け合う感覚を。

世界はそれを愛と呼ぶ。

私は幸せだ。

一族から離れ、はぐれたエルフなのだ。

どうやら私はエルフから、ただの女になったようだ。

あの日彼が私の身体を貫いた時、激痛のなか見上げた彼の目は、ただ私だけを見ていた。

あの男にとって私とは、エルフの王女でもなんでもなく、ただの可愛い女でしか無いと言う。

可愛い女……

ただその一言で、私が今まで築いてきた尊厳、プライドを壊してしまった。

私は幸せだ。そこに理屈はいらなかったのだ。

一緒に集落を築きながら、彼は言った。

「そのうち二人で世界でも見てまわりましょうか？きっと素晴らしいですよ？ホッホッホ……」

彼はきつと気紛れに言ったただけだろう。無論、嘘ではないと思うが。

だって彼は女好きだから、きつとあちこちで女を作るだろう。

だからきつと、二人では無いかもしれない。

でも彼は必ず世界を見せてくれるだろう。彼は私に嘘は言わないからだ。

だから、嬉しいのだ。

国があつて国境があり、あちこち争いもあり、そんな世界を見歩くなつて普通は無理だ。

けど、私にはわかる。

彼はやると言つたらやるのだ。そこに困難や敵がいたら、高笑いしながら叩きつぶすだろう。

だから私は信じるだけでいいのだ。

うん、私にもいまやっと理解した。

私はただの女だ

だからダーリン？

早く帰って来てよね



## 準備からの〜出発ッ

山崎ことヤマザキです。本日は素晴らしく気分がいい。何故ならアキが…ホッホッホ…。

さてアキを美味しく頂いた明るる日、私は宿屋を引き払い、アキを伴って武具店に来ました。昨日必要ありませんとか言っていました。が、少し考え直しました。

ほら、私は新天地を探しにいくのが目的なんですよ？ですから武器はあると思いき直した訳です。

いえね？無くてもいいのですが、持っていたら冒険者っぽく見えるでしょう？ならば昨日の警備隊相手みたく、迂闊に魔法を放つ事もしなくて済みますからね？無用なトラブルは面倒ですからねえ。

と言う事で私は今、ザイオンのメインストリートをアキに連れられ歩いていきます。

「わたしの行き付けの武器屋さんにご案内ですう〜」と言うアキに手を引かれています。私の身長にオチビさんのアキ。どうも私達は親子にしか見えませんか？まあ、爛れた親子ですがね。ホッホッホ……。

あらあら、何というネーミングセンス。流石の私も驚きましたよ。

まあ、気にしたら負けですねえ。異世界クオリティと無理やり納得しますかね。さすがファンタジー世界って事でしょうか。

場所は分かりましたので、アキを警備隊詰所まで送って行きました。やはりデキル男はアフターケアまでしっかりとしなければなりません。

で、つきました。

隊員達が口々に「隊長、おはようっす」とか、うーん愛されてますねえ。

「ザキさん」

「はいく？」

チュッ

oh…ポカホントス……

ざわ……ざわ……

あら…凄まじい殺気が私を襲います。

何してくれるのですか？アキ……

ざわわ……ざわわ……

それはさとうきび畑です。私はとりあえず逃げました。君子危うきに近寄らずですよ？しかし、詰所にいた人達は、みな昨日の隊員でした。全員がピンピンしてましたよ。どういふ身体しているのでしょうか？ま、死んでないからホッと思いましたけどね。

キスしてきたアキの口が笑っていたのは気のせいですよ？

「にははは…外堀から埋めるのですう」とか心の声がダダ漏れですが、それは気のせいですよ？ホッホッホ……

女の子の裏の顔は怖いですねえ等と思いながら、私はそそくさと武器屋に戻りました。

中に入りますと、超と言うだけあって流石に品揃えは素晴らしいですね。武器から防具まで様々な種類が揃っています。

まあ私は既に買うものを決めてありますから、迷うつもりもありません。

「店主、金属で出来た棍棒なんてございますか？」

「金属の棍棒ですか…それはそれはお目が高い。では、少々お待ちを……」

あるん…ですね？少し驚きました。店主はニヤリと笑うと、バツクヤードに消えていきました。

何ですかこれ。怪しいDVD屋で「無修正…ある？」「……ちよつと待ってな」みたいなやり取りのようで、妖しいスメルがしますね。

何やらズキユーンと来ちゃいますね。

とか悶えてましたら、店主が戻ってきました。

「お待たせしました。こちらはユグドランの棍棒です。これは世界樹と言う神聖な木から削り出された逸品です。実はある有名な職人の一点物でして、少々値が張りますが、攻撃力はそこの剣よりありますよ。世界樹は金属より密度が濃いですから」

店主はマニアが持つ妖しいオーラで私に説明します。そして渡された棍棒は、チートな私が持つても、ズッシリとした重量感ですね。30？はあるそうですね。だから誰も持てずに売れなかったんじゃないでしょうかね？一体その職人とやらは何を考えていたのでしょうか？

棍棒の長さは150？くらいで、フォームはマッチ棒みたいですが、太くて長いですがね？

太くなってる側の先は、もう鈍器です。圧倒的なまでの鈍器です。おバカさん達の頭をぶっ飛ばすにはピッタリですね。

細いほうの先は鋭利な鋼が仕込んであり、突き刺す気まんまんです。鈍器であり暗器です。その職人はきつとまともな人間では無いでしょうね……。

取り敢えず使い勝手を確認と思い、片手でブンブン振り回していましたが、オヤジが目を白黒させていました。

「お客様…その杖は、決して片手で振り回すものではないのですが…驚きました。実はその杖は、重すぎて、今まで売れなかったのです。どうでしょう？お安くしますので、お買い上げ戴けませんか？」

やはりそうでしたか……。おかげで私がお買える訳ですから構いませんがね。

「さて、いくらでしょう？」

「金貨三枚ですが…」

「安いじゃないですか？よろしい、買いましょう。大変気に入りましたよ」

私はそう言い、代金を支払いました。これからたくさん血に染めてあげますからね？ホッホッホ……。

それから私は編み上げの皮のブーツと、全身を隠せる、黒色のローブも買いました。冒険者はローブは正装とも言えるアイテムだそ

うです。返り血とかも防げますし、あまり目立ちたくない私には嬉しい限りですね。ブーツはその、私は今まで自作のワラジでしたからね。少し奮発しましたよ。

後は雑貨屋に向かい、細々とした食料や酒を買い、サービスで貰った頭陀袋につめました。保存食は旅に必須ですからね。さあこれで準備完了です。新天地を探して出発ですよ。

そうして私は南の大門へ向かい、冒険者カードを提示し、外へでました。

……何ですか？門番達の私への殺気が尋常じゃないのですが？私、何かしましたっけ？

まあいいでしょう。触らぬ神になんとやらです。私は知らぬ顔で街道へ歩みを進めました。

しばらく私は歩きながら、この素晴らしい景色を楽しんでいました。が……

サッ！クルッ

私は振り返ります。

ガサガサ……

何かいますね？

まあいいでしょう。気にしないで歩く……と見せ掛けてサツ！クルツ！

ガサガサガサガサ…

やはり何かいますね？

歩こう～歩こう～私は元気～ からのサツ！クルツ！！

「あっ！」

ホッホッホ……引っ掛かりましたね？私の戦闘力を舐めないで頂きたい。ではなくて、アキじゃないですか？どこかへお出かけですか？

「いえ～私もお供するのですう」

何ですって？貴方、お仕事があるじゃないですか？

「辞めちゃいましたのです」

いやいやいや、ダメでしょう辞めたら。だから門番のあの殺気で  
すか……

「街へお帰りなさい」

「イヤですう！」

「帰りなさい」

「イヤですう！！！」

「なら帰えらなくていいですよ？」

「イヤですう！！はっ！？」

ホッホッホ……アキ、貴方はおバカさんですねえ〜では私はこの  
辺で失礼しますね？

アラホラサッサー

「行かせね〜よ？」

口調違いますよ？と言うか肩に指食い込んでますって……私、女  
難の相でも出てますかねえ……

そもそもアキさん、家は？親とか反対しなかったんでしょうか？

「いえ〜私は孤児なので元々いないですう」



そうなのですか？ ま、ついてくるのは構わないですが、私は黒いですし目的の前に立ちふさがるものは実力を持って排除すると言  
う傲慢な人間ですよ？

「大丈夫です。ザキさんは悪い人じゃないです」

ふむう、では聞きますが、師匠のエルフは女で、集落で私の帰りを待ってるんですよ？彼女と毎日亀仙人の頭が乾く暇がない程に組み手してますよ？

「でも…そんなザキさんを…好きなんですう…」

なっ泣くなんて卑怯ですよ？分かりました。着いてきていいから泣かないでください。

「ぐすっ…置いてっちゃやなのです…」

わかりましたから。ほら、頭ナデコナデコしてあげますよ。

そうして結局、私は押し切られ仲間が増えました…イルフィに怒られますかね？まあいいでしょう。

そうして私たちは東を目指して出発したのです。

「でもおゝエルフのお姉様の事を黙ってたのはいけない事です  
う。それについてはO H A N A S H I I しましょ？」

そして私は、彼女の指先一つでダウンしました。

ホッホッホ……

準備からの〜出発ッ（後書き）

新しいメンバー追加だのん

**G o E a s tからの仲間ッ(前書き)**

また旅の仲間が増えました

## Go Eastからの仲間ッ

【自主規制発動中】

音声のみでお楽しみ下さい。

「あらあら、アキさん？これはどうしました？随分と水分が……」

「はわっ、これは、あんっ汚いからそんな場所はああ……」

「ホッホッホ……どうやらここが弱いみたいですね？こうですか？こうですか？ここをこうですか！？」

「らめでしゅザキさんらめっらめええっ！あひゃああ……」

「ホッホッホ……まだ終わりませんよ？さあアキさん、これを見てどう思います？」

「すごく……おおき……ひゃ！？いきなり奥までらめえええ！」

「まったくおバカさんなんですから。では大サービスで御覧にいらしましょう！私の最後の姿を……真の姿をね？こうかっ？こうかっ

？「うっなのかつ！？」

「らめでしゅザキさんらめなのおおっ！いやっいやっらめえええええええ……」

### 【自主規制解除】

ふう……いきなり何かと思いました？いえね？東へ向かう道すがら、私はアキと色々話していたのです。所謂、四方山話の類から身の上話の類までと言った所です。

まあこの娘も旅の仲間となった訳ですから、ある程度の情報交換は必要でしょう？なのでだらだらと話していたのですが、彼女は私と同様に孤児だったようで、そこから生まれた彼女の夢は”孤児院”を自分で経営するだそうです。

それで彼女は私の新天地と、人間よりも固有種族に味方している話をする、目をキラキラさせて一枚噛ませてほしいと言いました。

どうやら孤児は固有種族も多いみたいですね。そんな感じで私達は改めて意気投合したと言う訳です。ホッホッホ……

え？じゃあ冒頭の流れは何かですか？そんなものランチを食べたらむらむらしたので、デザートにアキを食べた。それだけですよ？身の上話の後に身の下話と言う訳です。ホッホッホ……。

そうそうアキさん？

「はふうはふう…なんですかあ？ザキさん」

これからは私をザキ様と呼びなさい。

「はあ、分かりましたあ。けどなぜ様なんですかあ？」

私が貴方をアキさんと呼び、貴方は私をザキ様と呼ぶ。これは様式美です。いいですね？アキさん。

「分かりましたあザキ様」

ふむ、やはりじっくり来ますね。ですが、もう一人欲しいですね。ホッホッホ……。

そんな他愛もないやり取りをしていた私達の耳に、何かの悲痛な悲鳴が聞こえてきました。

きゅいきゅいー！……！！

アキさん

「はい、ザキ様っ！」

私達は慌てて走りだし、声が出た方へと急ぎました。現場はそれ程遠くは無いようです。

暫く走ると、悲鳴が聞こえた場所には数人の人間が何かを囲んでいますね。それはまだ子供の白い竜でした。トカゲにも見えませんが、背中には立派な羽が生えています。竜は怯えてガタガタと震えています。

「貴方たちはいったい何をやってるんですか？可哀想に……震えて泣いているじゃないですか？すぐ解放してあげてくれませんか？」

「離すですう！！すぐ竜を離すですう！！！」

私の静かな説得に、アキさんの怒声がかぶさりました。アキさんは竜を庇うように男たちの前に立ちふさがります。

「お嬢ちゃん。こりゃあ俺達の獲物だぜ？引っ込んでな！」

「おうおう、横から何してくれるんだ？殺されたいのか？」



男達は私の姿が目に入らないようで、身体の小さな娘であるアキさんを見下しているようですね。

竜を見てみると随分綺麗な鱗をしています。これはギルドの討伐依頼ではなく、密猟と言うヤツですかね？まあいいでしょう。但し、私の可愛いアキさんに傷1つでも付けたら

「い、痛いですう！」

やりやがりましたね？アキさん、下がちなさい。

「で、でも……」

下がれッ

「は、はいザキ様」

私はアキさんを下がらせ、買ったばかりのユグドランの棍棒を取出しました。もう、許しません。

「なんだあ？正義の味方のお出ましかあ？」

「ケガしたくなけりゃ下がってな？」

「ああ、そのお嬢さんは美味しく！？ギャアアアアアアアアアア」

みなまで言わせませんよ？まったく……

「絶対許さんぞ虫ケラ共ツツツッ！！じわじわとなぶり殺しにしてくれるツツツツツツツツ」

グチャッ

メキヨッ

ドチャッ

ああ、これはいけませんね。怒りにまかせて棍棒を振つたら、なぶるどころか即死じゃありませんか。この棍棒は中々の攻撃力ですね。先が返り血で真っ赤なのが頂けません、まあいいでしょう。ホッホッホ……。

「ザキ様……」

アキさん、私が怖いですか？でも私はこの性格も、何かを成す為

の手段は妥協をしません。帰るなら今のうちですよ？

「……………ザキ様のバカア！！！！せっかくわたしがやっつけようと思っただのにいゝゝ！！！！」

……………あらあら、それは申し訳ありませんでした。でも私が怖くないのですか？

「へっ？怖くないですよおゝザキ様がしなければわたしが殺つてましたから でもゝわたしが叩かれてえそれに怒ってくれて…嬉しかったですうゝザキ様？チュツ」

あらあら、それは安心しました。なら私は今後も自重は致しません。それよりアキさん？キスのお返しをしなければなりませんね。

「はわっ！？ザキ様あ」

【緊急自主規制発令】

合 体

【自主規制解除】

ふう……今回は簡易verでお送りしました。そういえば忘れてました。竜さん、大丈夫でしたか？

きゅいきゅい

安心したのか竜は私にこすりつき、感謝を示します。あらあら、可愛らしいですね？

何やら後ろから黒いオーラを感じますが、気にしたら負けだと思っ  
うので気にはしません。

私は精霊を呼び出し、竜の傷を治癒の魔法で治します。よく見たら翼の根元がパツクリと……。これは痛そうですね。

ふと見れば悪党達の亡骸はアキが木に吊しました。貴方は百舌鳥ですか？

さて竜。もう捕まっ  
てはいけませんよ？私は竜が完治したのを確認し、竜の頭を一撫ですると、私達は出発しました。

「ザキ様…竜がついてきますう…どうしましょう？困りましたあ」

いえ、アキさんが言う資格は無いと思いますよ？貴方と一緒にじゃないですか。

はあ、一応気が付いてはいたんですが、敢えて言わなかったんですがねえ…

そのの竜…おうちに帰りなさい

きゅいきゅいー！きゅいー！

何か主張してますね？…付いてきたいのですか？

きゅいきゅい

竜は嬉しそうに翼をバサバサしていますね。もう面倒ですね。竜、付いてきてもいいですよ？

きゅいきゅい

竜は私に擦り寄り、喜びを全身で表した。なんでしよう？やはり可愛らしいですね？名前はザーボ…止みましょう。さて竜よ、行きましょうか？

きゅい

ゴオオオオオ……

黒オーラは無視しましょう……

## 遭遇からの〳発見ッ

ヤマザキです。業務連絡ですが、今後私の名前は漢字からカタカナ表記に統一致します。理由？分かりやすいからですよ。私はそんな含みを持った行動など致しませんよ。ホッホッホ……。

では今日も張り切って参りましょう。ではまず前回までのおさらいから行きましょうかね？

ではナレーションの人よろしくお願いしますよ。

〳前回までのおさらい〳

人類が増えすぎた人口を宇宙に移民させるようになって既に半世紀が過ぎていく。

地球の周りの人工都市は人類の第二の故郷として、人々は子を産み、育て、そして死んでいった。

宇宙世紀0079……ストロップ！！ストロップ！！お待ちなさい！

何をやってるのですか？ここは異世界です。宇宙は関係ありませんからね？

本当にしっかりやって戴かないと怒られるんですよ？え？いやあ、

NOSでやれ！とか言う人が絶対いますからね？頼みますよ？

くおさらいTAKE2く

仮面 イダー本郷猛は改造人間である！

カット！！！！

なんかもう、いきなりダメじゃないですか？ヒネリも何も無いですから…そのまんまとか使えないのですよ？

ヒネリ 無いネタ ダメ 絶対。

ナレーターの人ちゃんとしてくれないと流石の私も怒りますよ？

コクコク

ボケとか無しですよ絶対？

コクコク

空気読んで下さいよ？今読むところですよ？大事だから二回言いましたよ？

コクコク

信じたからね？ じゃ行ってみよう！



くおさらい TAKE3く

皆さんお待ちかね！

ついにデビルガン ムを倒したドン。

ですが、怒りに燃えるマスター・ア アは、地球と人類の未来を懸け、最大最後のガン ムファイトを、ドモンに挑みます。

機動武闘伝Gガン ムくさらは師匠！ マスター・ア ア、暁に死す！」にレディ・ゴー！

……。もはやおさらいじゃないですよ？次回予告ですよ？レディゴーじゃないでしょう？

はあ、やはりギャラをケチったのがいけませんでした。お引き取りください。ギャラは振込みますのでご心配なく。

では本編に参りましょう。レディイイゴオオオ！！！！

さて、前回私達は子供の白い竜を仲間にしたのですが、この子、喋るんですよね？

ただ直接声を発する訳じゃなく、精霊魔法のせいなのか、頭ん中に直接語りかけてくるのですよ。

だからアキさんには「きゅいきゅい」としか聞こえない訳ですが、私には判ってしまいます。ですから返事したり頷いたりするじゃないですか？

そしたらアキさん、「仲間はずれはいけません」「って言いながら黒オーラ出すんですよね……」。

きゅいきゅい（お兄様、精神感応魔法でアキ姉様に祝福したらいいと思いますわ）

ほう？それはどうやるのですか？

きゅいきゅい（アキ姉様の額に手を当てて、精霊を呼んで頼めばいいと思いますわ）

なるほどなるほど、以外と簡単なんですわ？しかし貴方、随分お上品な喋り方をするのですね？

きゅいきゅい（私達は竜種の上位種のホワイトドラゴンです。でするのでお父様の教育が厳しいですの）

それはそれは、大変だったのですね？

ゴオオオオオ……

「ザキ様……アキは放置プレイなのですか？」

い、いえ、そんな事はありませんよ。アキさん？目を閉じてじっとしてください。

「もう……ザキ様ったら……まだ明るいですう」

さつき青カンした気がしま……いえ、いいです。じゃ行きますよ！

私は額に手を当て……精霊を集め……イメージして……祝福を……

「アキさんに、意思の疎通よ、おいでませっ！」

おやおや、アキさんの頭に青い光が集まってきましたよ。

「はわぁ……なんか暖かいですう……」

どうですか？竜、話してごらんなさい？

きゅいきゅい（アキ姉様、わたくしの言葉がわかりますか？）

「あれえ、竜の声が聞こえるですう」

どうやら成功したようですね？ほっとしました。

（良かったですね、お兄様）

これでアキさんも会話に参加出来ますね？まあ、みんな仲良くやりましょうね？

「はいですう」

(わかりましたわ)

そんなやりとりをしていましたら、竜について判ったことがあります。竜、いえ、名前はエバと言い、竜神族の娘なのだそうです。

竜神族は成人すると集落を出て、自分の縄張りを見付けるために旅に出るらしいのです。エバは縄張りにいいかなと、地上に降りて確認したときに人間に捕まったようです。竜のくせにおバカさんですな。

エバは襲われて庇ってくれたアキを尊敬し、アキを惚れさせている私を優秀なオスと認め、番いに選んだと言います。そして、私が高笑いしながら悪党を撲殺する姿に、畏怖を覚え、私に服従するのを決めたようです。

番いになる絶対条件は、自分より強いらしいのですよ。強い、ですか？褒められたら悪い気はしませんね。ホッホッホ……。

しかし番<sup>つが</sup>い？と言う事は……えっ!？

ゴオオオオオ……

「エバさん？ゆつくりO H A N A S H Iしなければいけませんね？」

（お兄様！？お兄様！？）

申し訳ありません、エバ。世の中には関わってはならない事が7つあります。その内の1つがコレなんです。ホッホッホ……ホッホッホ……

（一時間後）

（ぐすっ……お兄様ひどいです……）

何があったか聞きませんが、私とてアキには勝てる気がしないのです。悪く思わないでくださいね……

「ザキ様何か言いました？」

「いいえ……何も……」

「それは良かったですう」

「……………」

（アキ姉様に逆らったら、生命の危機を感じますわ……）

と、微笑ましいやり取りをしながら、私たちは海を目指し、東へ向かうのでした。

エバさんが空から見ましたら、あと少しで海に着くそうです。しかし、エバさんは良い拾いものでしたね。空から見れるのは行動の幅が広がりますからね。

やがて森の切れ間を抜けたら、白い砂浜に出ました。そう、海ですよ。そこは小さな三日月型の湾になっていて、海の底は玉砂利なのか完全に透き通っています。素晴らしく綺麗ですよ。

沖にはたくさんの水鳥が騒ぎ、豊富な魚がいることを教えてくれます。新鮮な魚を食べれるなんて、ここでは贅沢ですから。

私はここだと決めました。いや、ここ以外無いと思います。ここなら少し森を切り開けば、立派な塩田が出来るでしょう。そしてザイオンへの街道を作れば、輸送も安心です。

魚をとれば、干物も作れるでしょう。この世界では高価な塩を、保存食になる干物に使えたら、これは一財産に繋がります。

決めました。アキさん、エバさん？ここに新しい集落を作りますよ。

「はいっ！」

(はいですのっ！)

私達は手を取り合い、喜びあいました。そして新天地が決まったところで一度、カーサンの集落に帰り、イルフィに会いに行かなければなりませんね。新しい土地と、新たな仲間。イルフィを蔑ろには出来ません。ですから

私は精霊の力を使い、転移扉（転移扉のある場所は、誰でも行き来出来る）を作成し、集落の敷地として、かなり広範囲に結界を張りました。

これで敷地に入ろうとする人間は、迷ったあげくに元の場所に戻るでしょう。

作業が終わり、アキさんとエバさんが獲ってきた魚を焼いて夕食を楽しみました。

子竜とはいえ3メートルを越える大きさのエバさんを枕にして、私達は寝ながら宝石箱のような空を眺めました。

とても驚沢で、幸せな夜となりました。

何故か無性にイルフィに逢いたくなつた夜でした。

「ザキ様あ、ね？」

仕方ありませんね？ホッホッホ……。



遭遇からの『発見』(後書き)

色々しません

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8825y/>

---

むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみた

2011年11月29日00時33分発行